



教訓圖會

二編

全

本

9  
1094



門 9  
號 4094  
卷

和歌連歌誹諧狂歌狂句古今不論

歌  
圖  
會  
日  
二  
輯

圖  
會  
日  
二  
輯



風小柳乃  
糸  
ねの巻  
けり  
懐  
徳  
袋

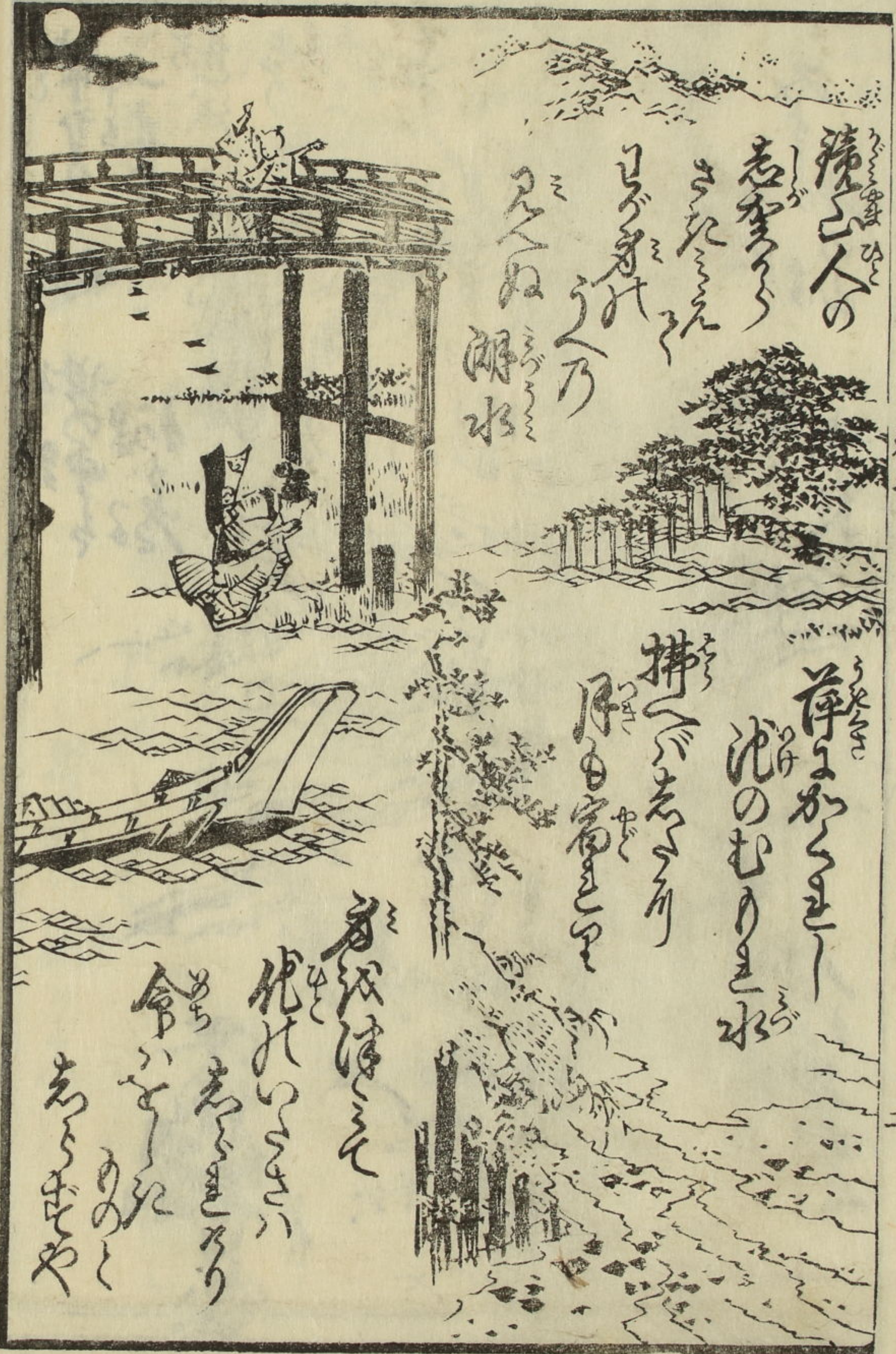




松の  
 うもれ  
 見ゆ  
 の  
 ば  
 ま  
 したるふあらん

茶より  
 あつち  
 のら  
 たり

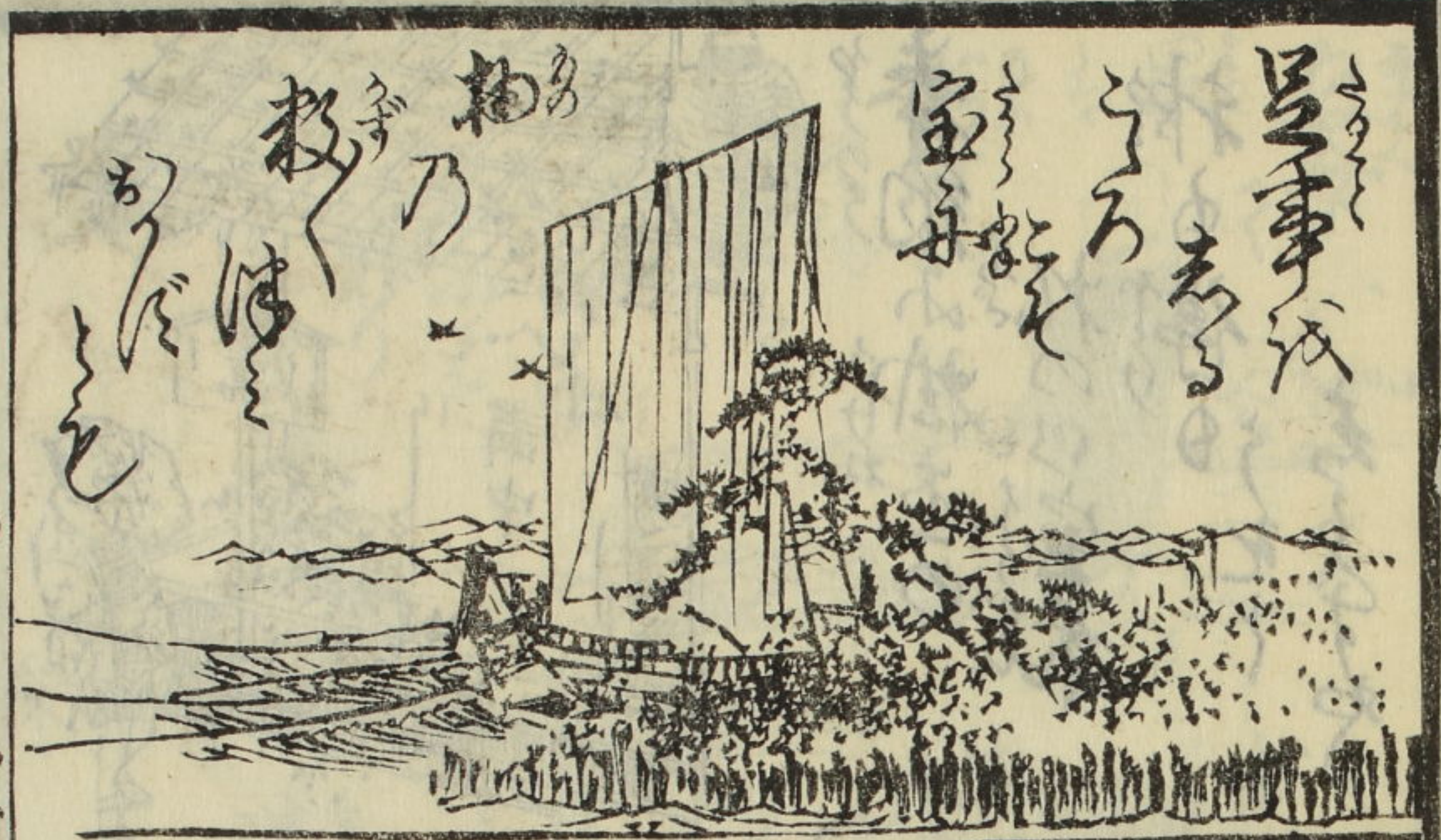
み  
 人  
 の  
 焼  
 魔  
 星



残  
 人  
 の  
 志  
 さ  
 日  
 足  
 水

舟  
 の  
 水

命  
 の  
 心



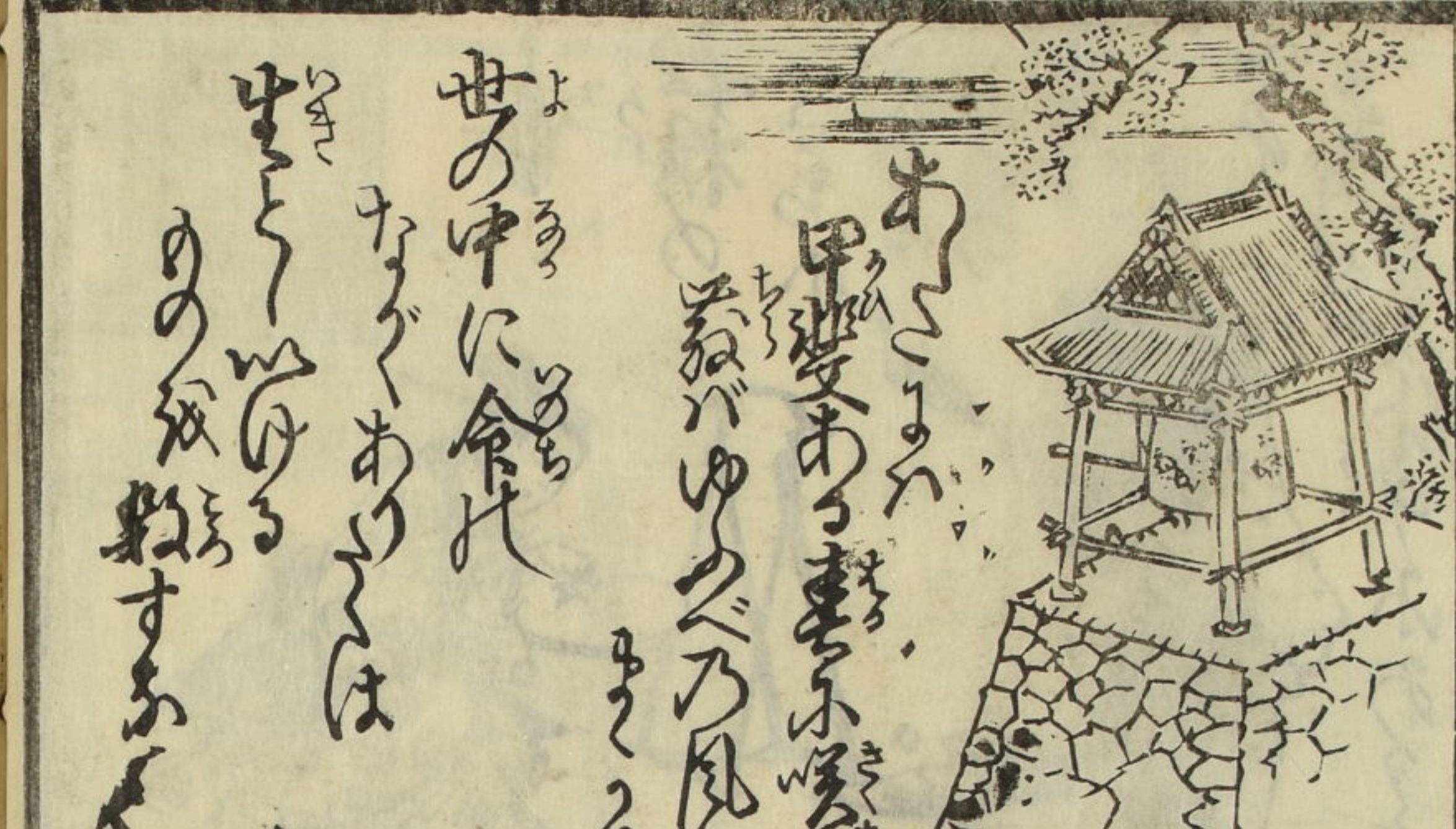
長事坂  
うら  
室舟  
おの  
おの  
おの



宝船  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの



世の中  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの



世の中に  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの



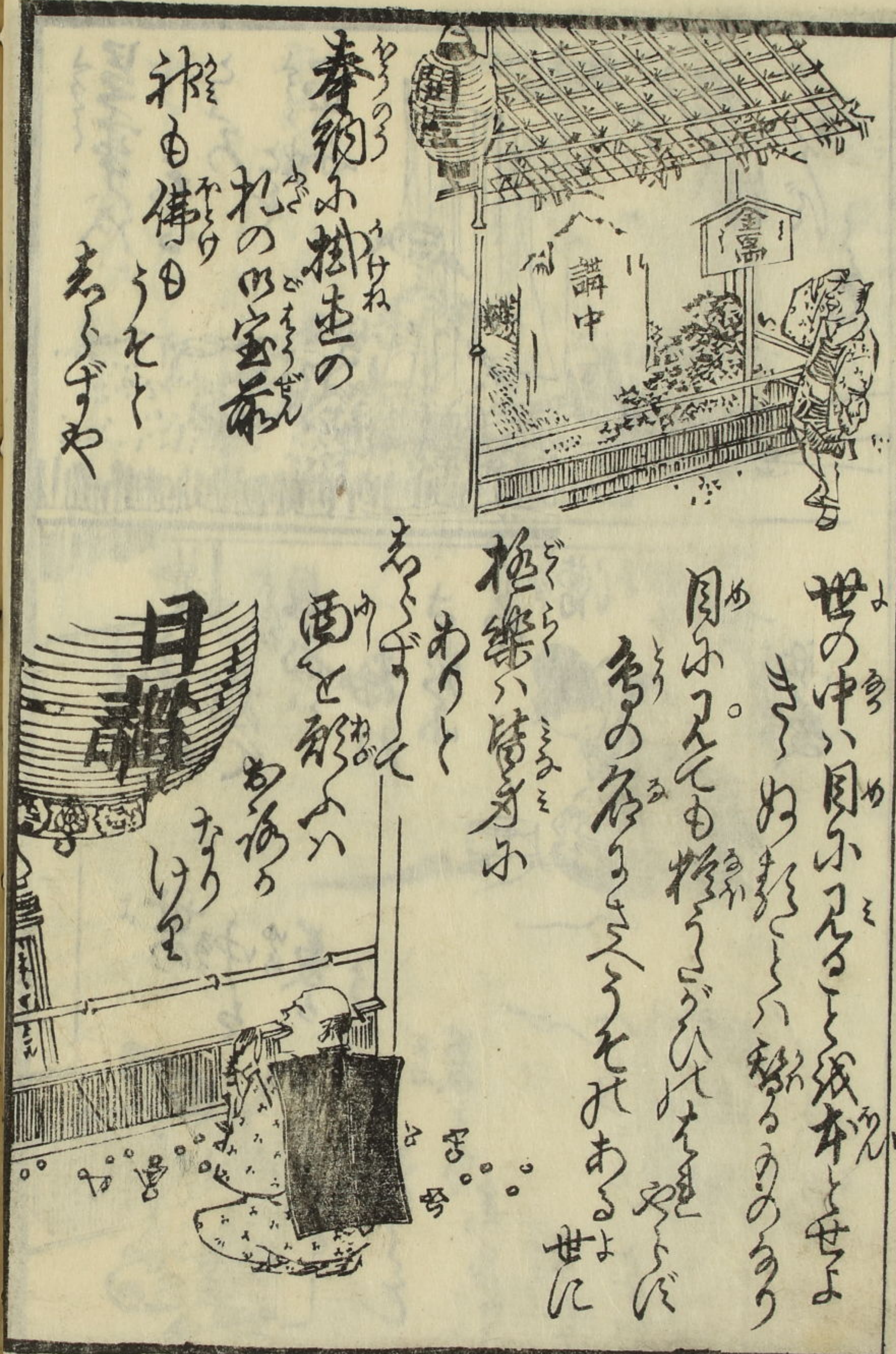
人里ちか  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの  
おの



なま 果 何 秋 名 あり けい  
なま 果 何 秋 名 あり けい  
なま 果 何 秋 名 あり けい

世 海 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
世 海 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
世 海 舟 舟 舟 舟 舟 舟

海 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
海 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
海 舟 舟 舟 舟 舟 舟



奉納 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
奉納 舟 舟 舟 舟 舟 舟  
奉納 舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟  
舟 舟 舟 舟 舟 舟



梅もよ  
 世の中  
 人の心  
 子の心  
 世の中  
 人の心  
 子の心

世の中  
 人の心  
 子の心  
 世の中  
 人の心  
 子の心



神代  
 神代  
 神代

神代  
 神代  
 神代

上  
 下  
 直中  
 直中

子  
 子  
 子



ついでに  
ののち  
さぞや  
えんめく

世の中

風小舟のせよ

若母なる  
孝女  
天命  
天行なり

母親の  
乳を  
世に

片乳房

あまの  
ちの  
あまの

鼻の  
さか

えんめく

言の  
の



世の中

ついでに  
ののち  
さぞや  
えんめく

世の人

あまの  
ちの  
あまの

世の中  
親の  
あまの  
ちの  
あまの

あまの  
ちの  
あまの





世の中々不男棄  
よのちかふしあ

世の中々  
よのちか  
 不男棄  
ふしあ  
 名  
な  
 利  
り  
 男  
おとこ  
 女  
おんな  
 世の中々  
よのちか  
 名  
な  
 利  
り  
 男  
おとこ  
 女  
おんな



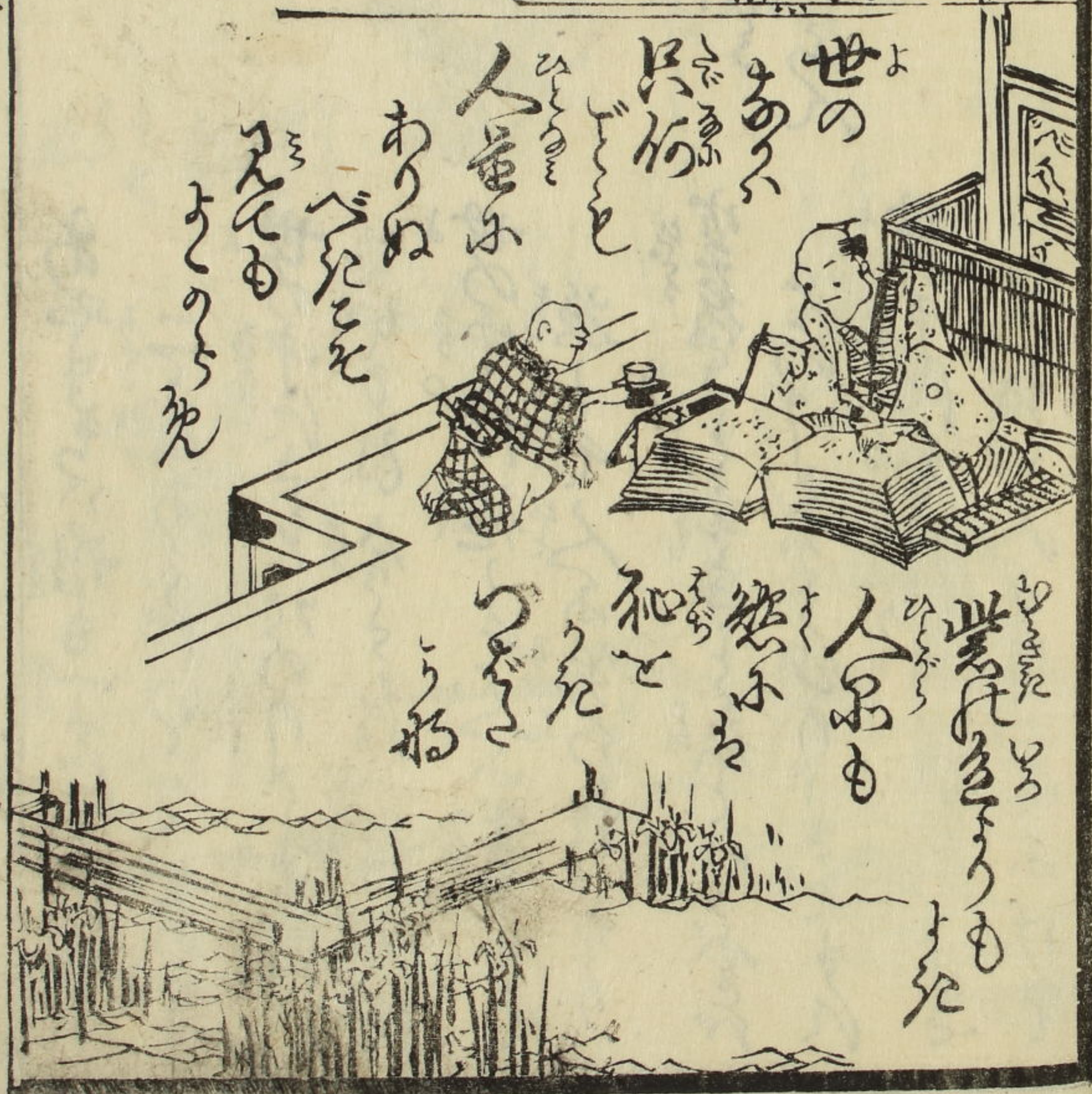
父母の  
ちちおや  
 恩  
おん  
 高  
たか

孝  
かう  
 不孝  
ふかう  
 鳥  
とり  
 高  
たか  
 親  
おや  
 子  
こ  
 名  
な  
 利  
り  
 男  
おとこ  
 女  
おんな



世の中を  
百行の

けりこ  
秘を  
すあが  
あまの  
うね  
あげ  
く



世の

あまの  
うね  
あげ  
く  
あめ  
べん  
よこの  
免

あまの  
うね  
あげ  
く  
あめ  
べん  
よこの  
免  
あまの  
うね  
あげ  
く  
あめ  
べん  
よこの  
免



世の中  
あまの  
うね  
あげ  
く



人

あまの  
うね  
あげ  
く  
あめ  
べん  
よこの  
免



世の中

あまの  
うね  
あげ  
く  
あめ  
べん  
よこの  
免



急小から巧に桶の

何事の上小

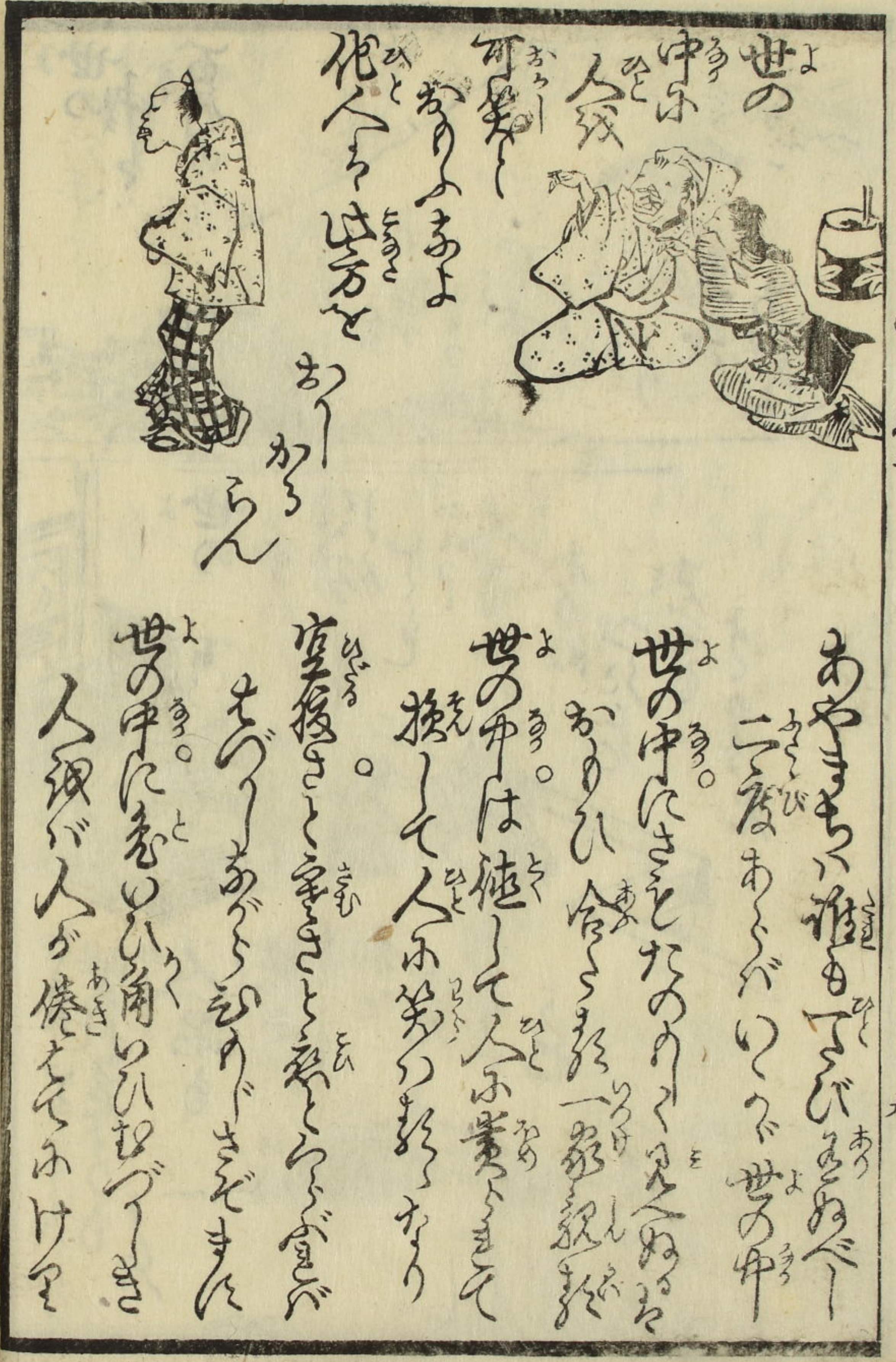
まうすれ  
このもど

邪科も  
人あ  
おのり

あゆまね  
解も  
やどた

けまこまが  
知あつた

佛子  
おのり  
あま



世の中  
可  
他人は方々



お  
か  
らん

あやまらる推もてびるぬが

二度あぶがいのる世の中

世の中はさまたのりくるとぬが

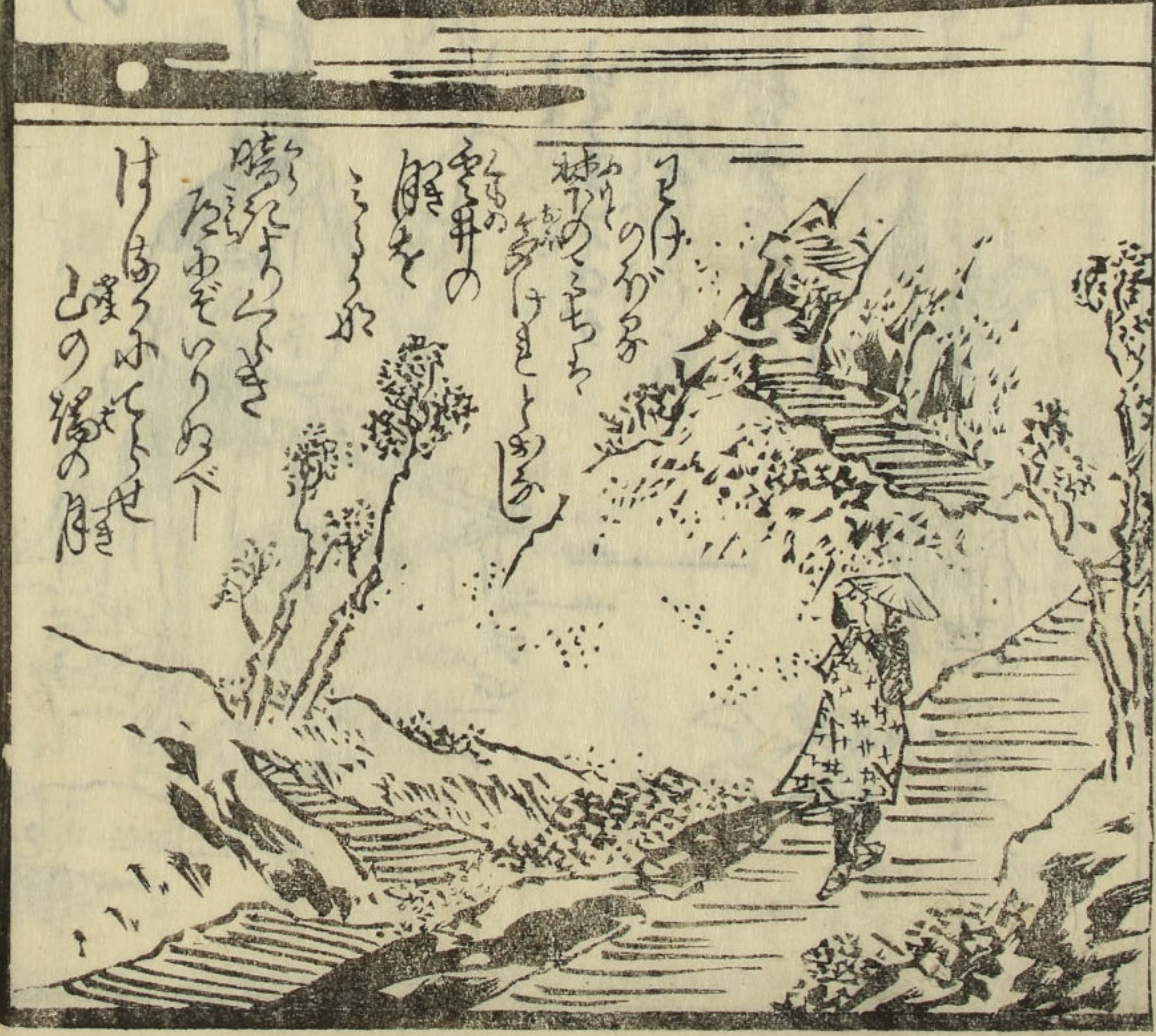
世の中は徳して人ふ業ふまて  
換して人ふ業ふまて

世の中は徳して人ふ業ふまて  
換して人ふ業ふまて

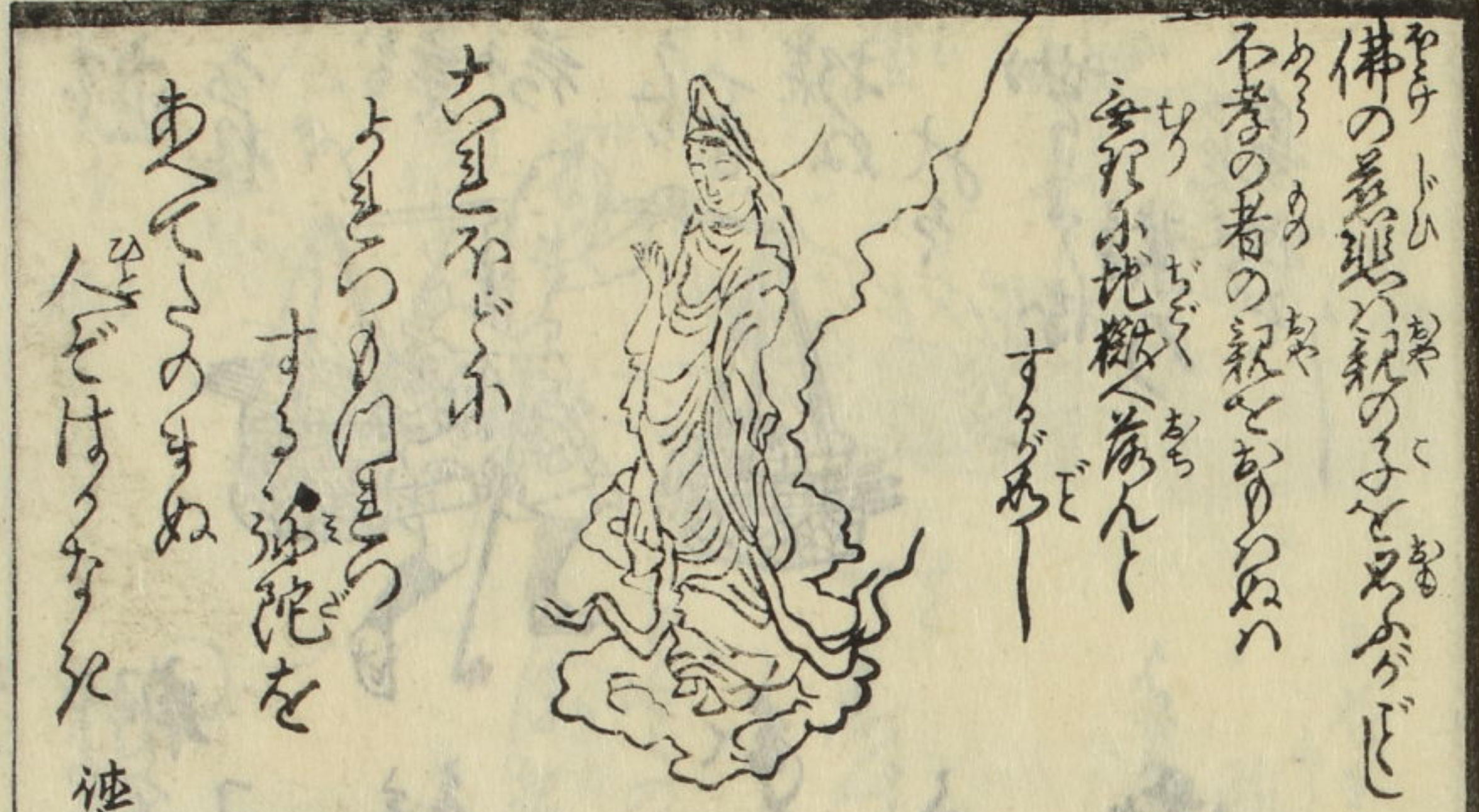
世の中は徳して人ふ業ふまて  
換して人ふ業ふまて



吾れ河  
その  
水に我  
らぬまば  
のむらの衆  
たぎ  
たぎ  
たぎ



けあふて  
この後の  
けあふて  
この後の  
けあふて  
この後の

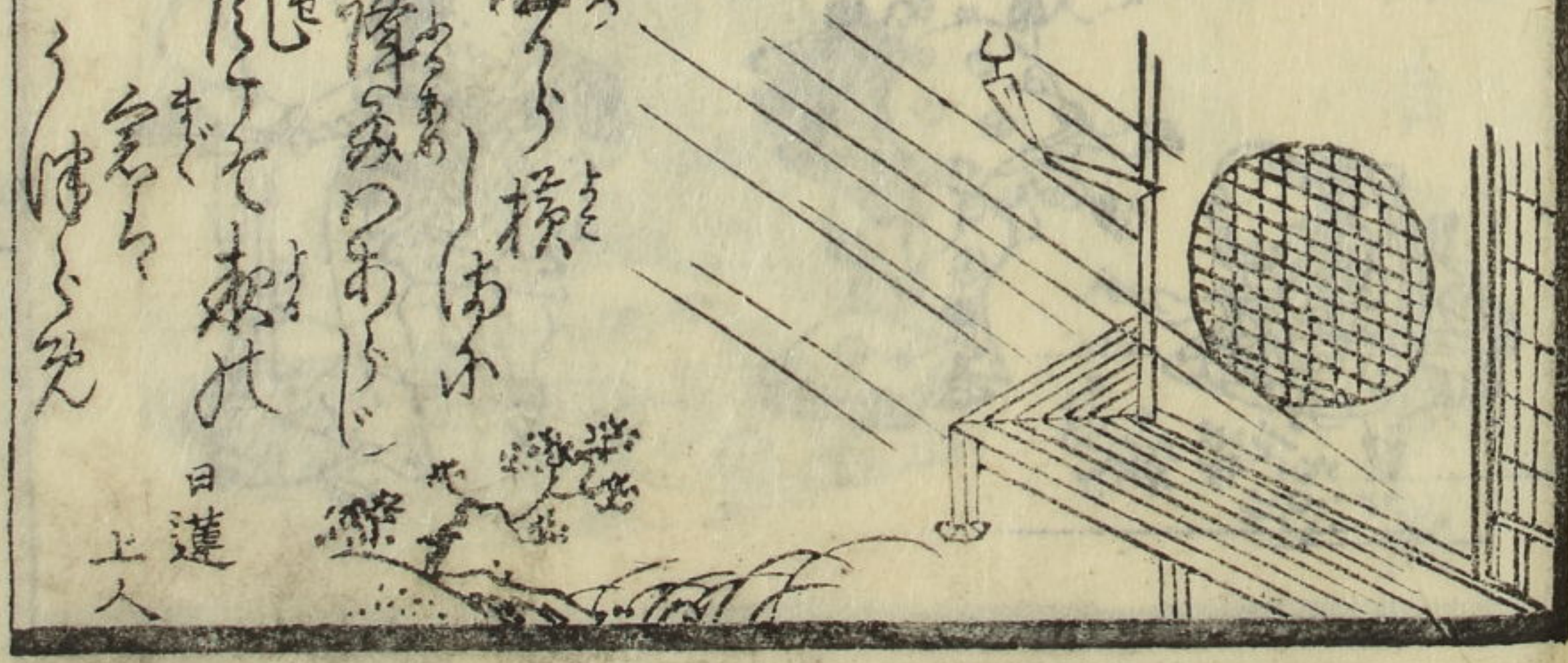


佛の慈悲  
不孝の者の親を  
愛する地獄へ落とす

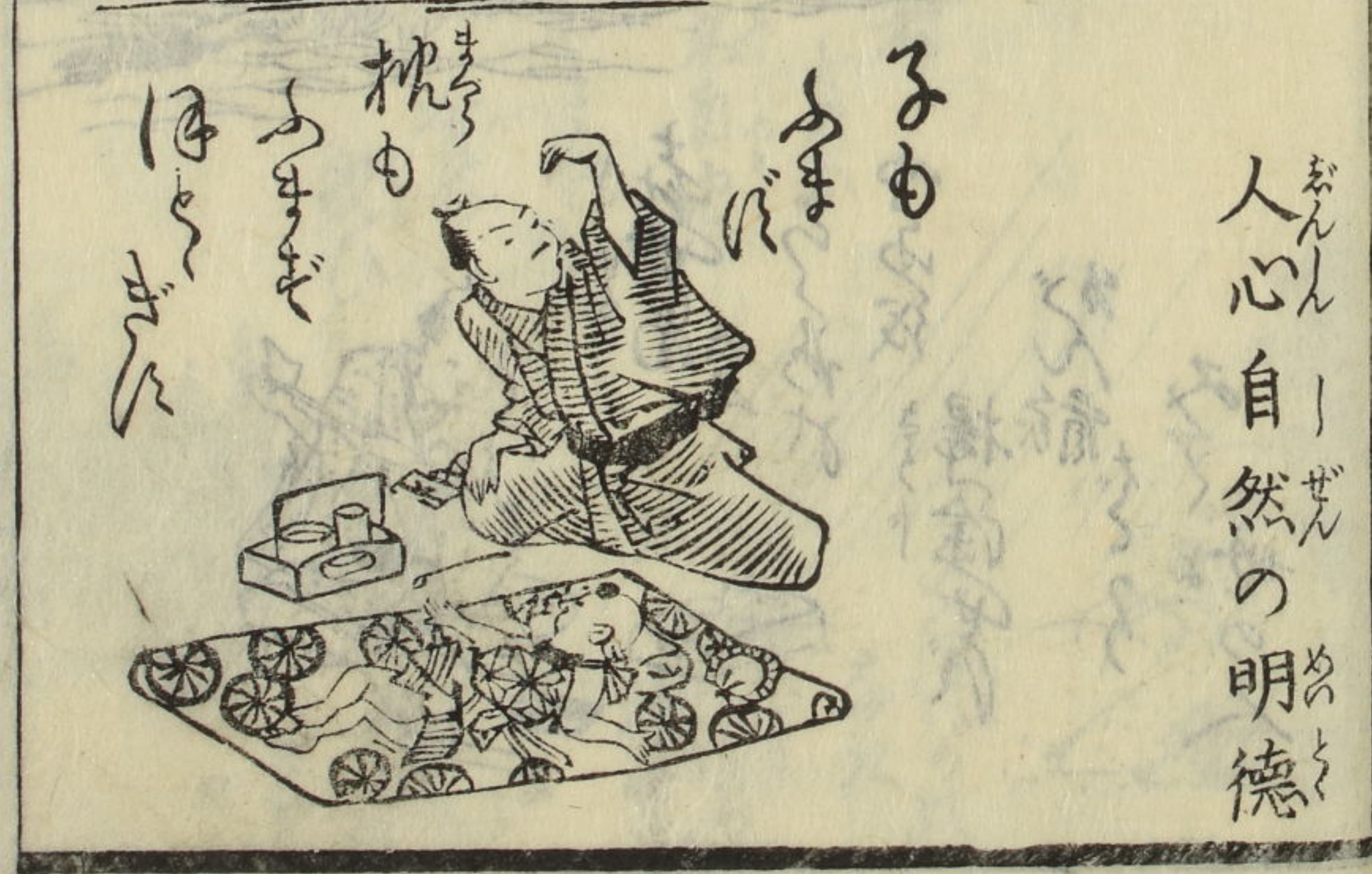
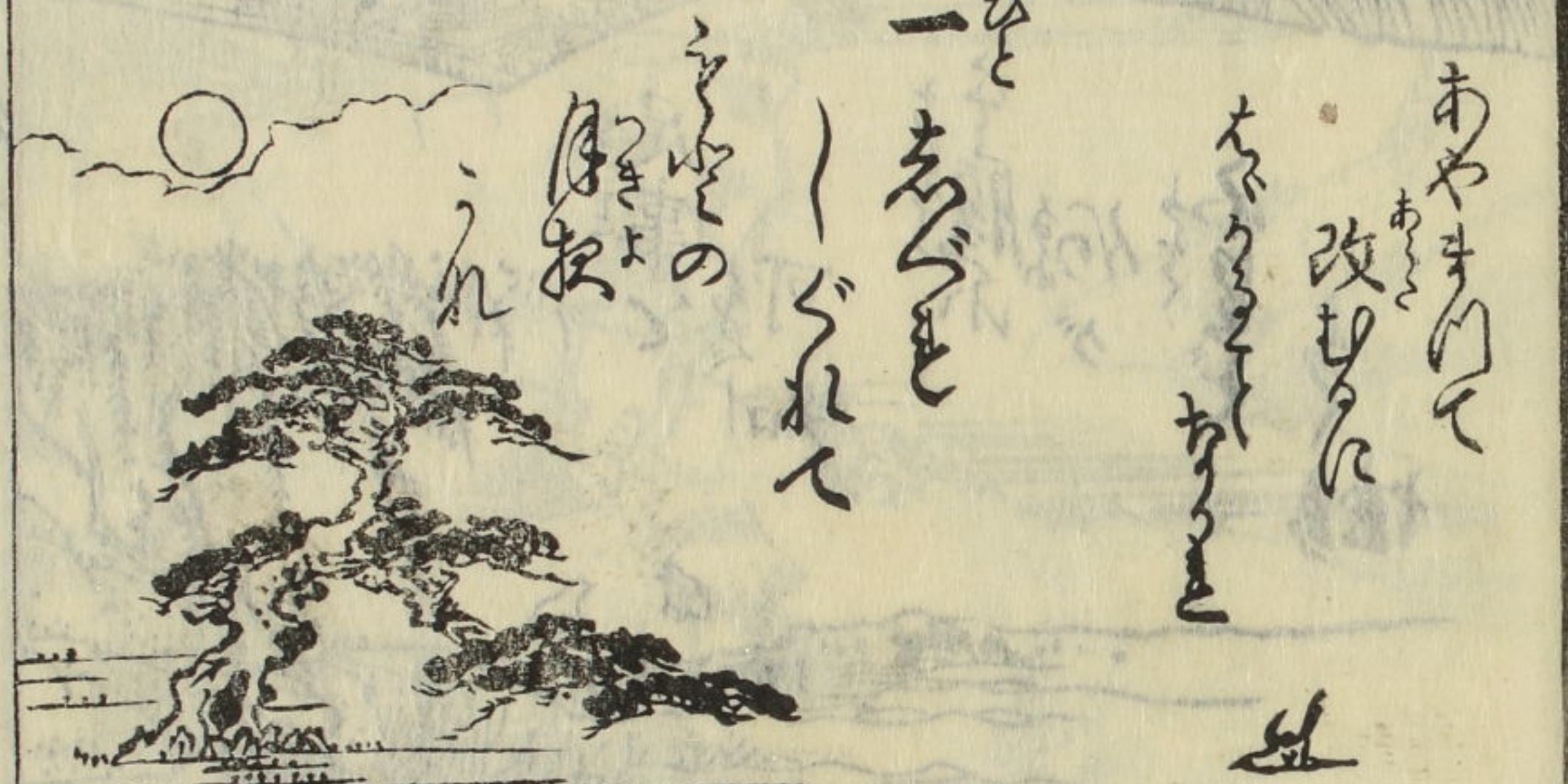
あつて  
人ぞけり  
あつて  
人ぞけり



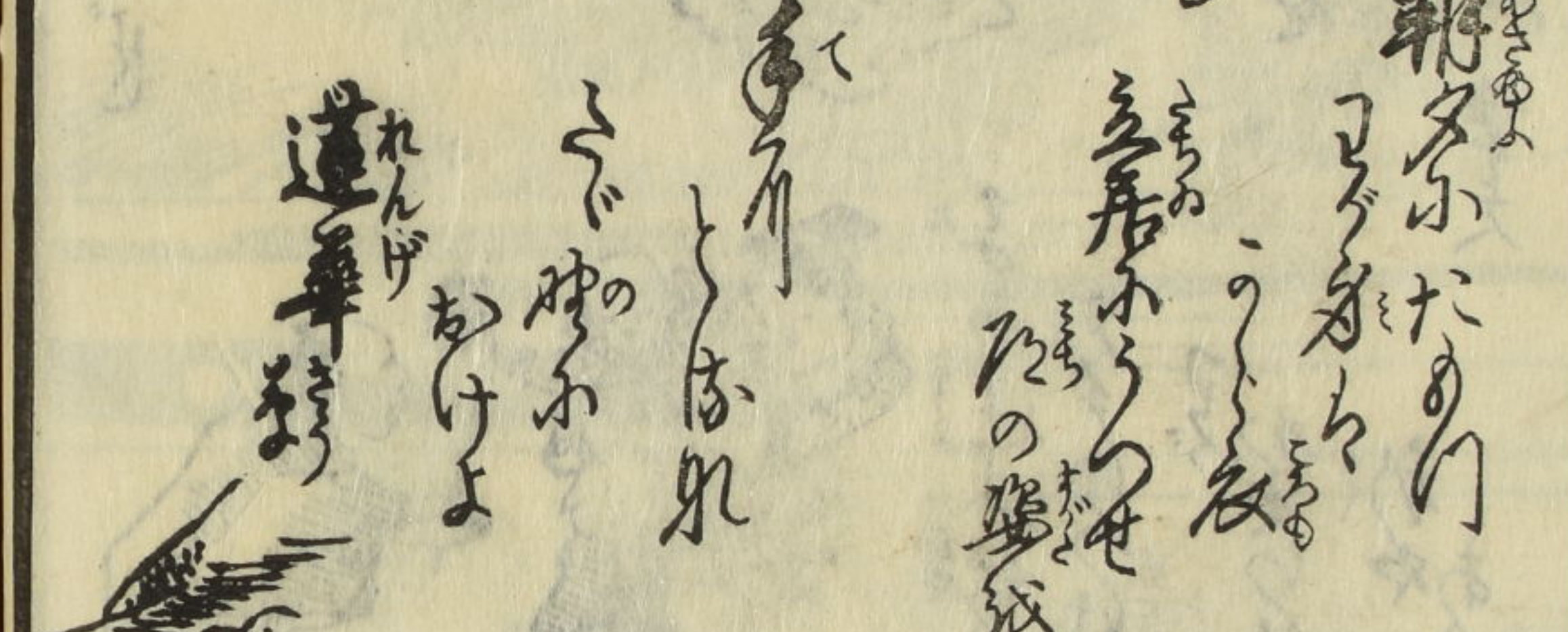
子あ速く  
かぞの  
ありあ



日蓮上人  
あつて  
人ぞけり



人心自然の明德









うき世の橋を  
さくもろく  
こころのつらさ

旅  
あはれ

世の舟  
ゆらゆら東に  
はなれぬ  
こころの  
あはれ

車留

深山  
その  
わが  
こころ



あはれ  
その  
針  
あはれ  
果て  
こころ

世の舟  
あはれ  
こころ  
あはれ  
あはれ  
あはれ

あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ  
あはれ





あつ滝の

夜はあじふ

こころをさす

解ぞや

橋あつて

うらみのがた

おれが

よのむ

情は

おのれ

おのれ

おのれ

おのれ

おのれ



水あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

あつ

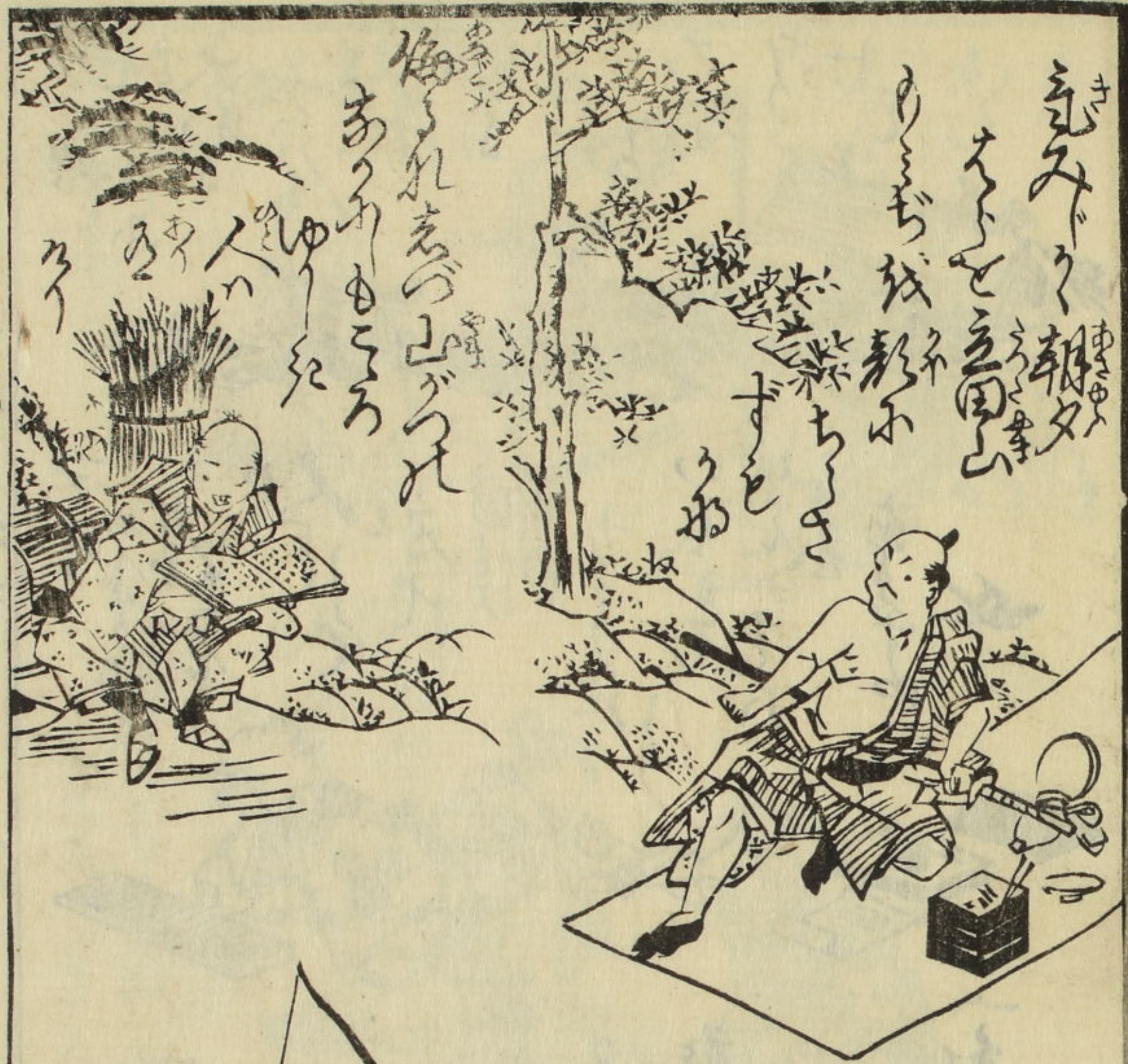
あつ

あつ

あつ

あつ





此の山は  
 名もなき  
 山なり  
 山は  
 山なり  
 山は  
 山なり



此の山は  
 名もなき  
 山なり  
 山は  
 山なり  
 山は  
 山なり



わり果ね  
 命なり  
 命なり  
 命なり  
 命なり  
 命なり

此の山は  
 名もなき  
 山なり  
 山は  
 山なり  
 山は  
 山なり

此の山は  
 名もなき  
 山なり  
 山は  
 山なり  
 山は  
 山なり



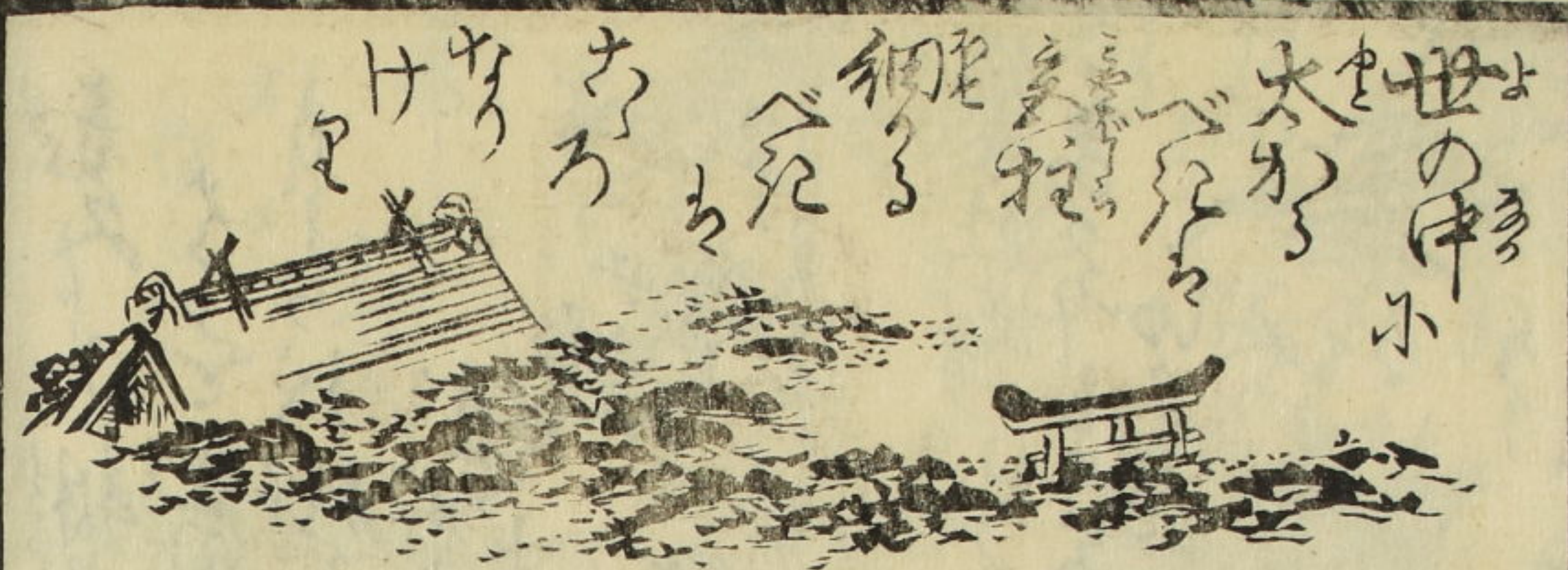
鬼小  
かたに  
人をも  
行くも  
何れも  
あはれ  
罪と  
かろく



鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ



鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ



世の  
仲小  
火か  
ぶら  
初る  
おろ  
けり  
あそり  
さうわ



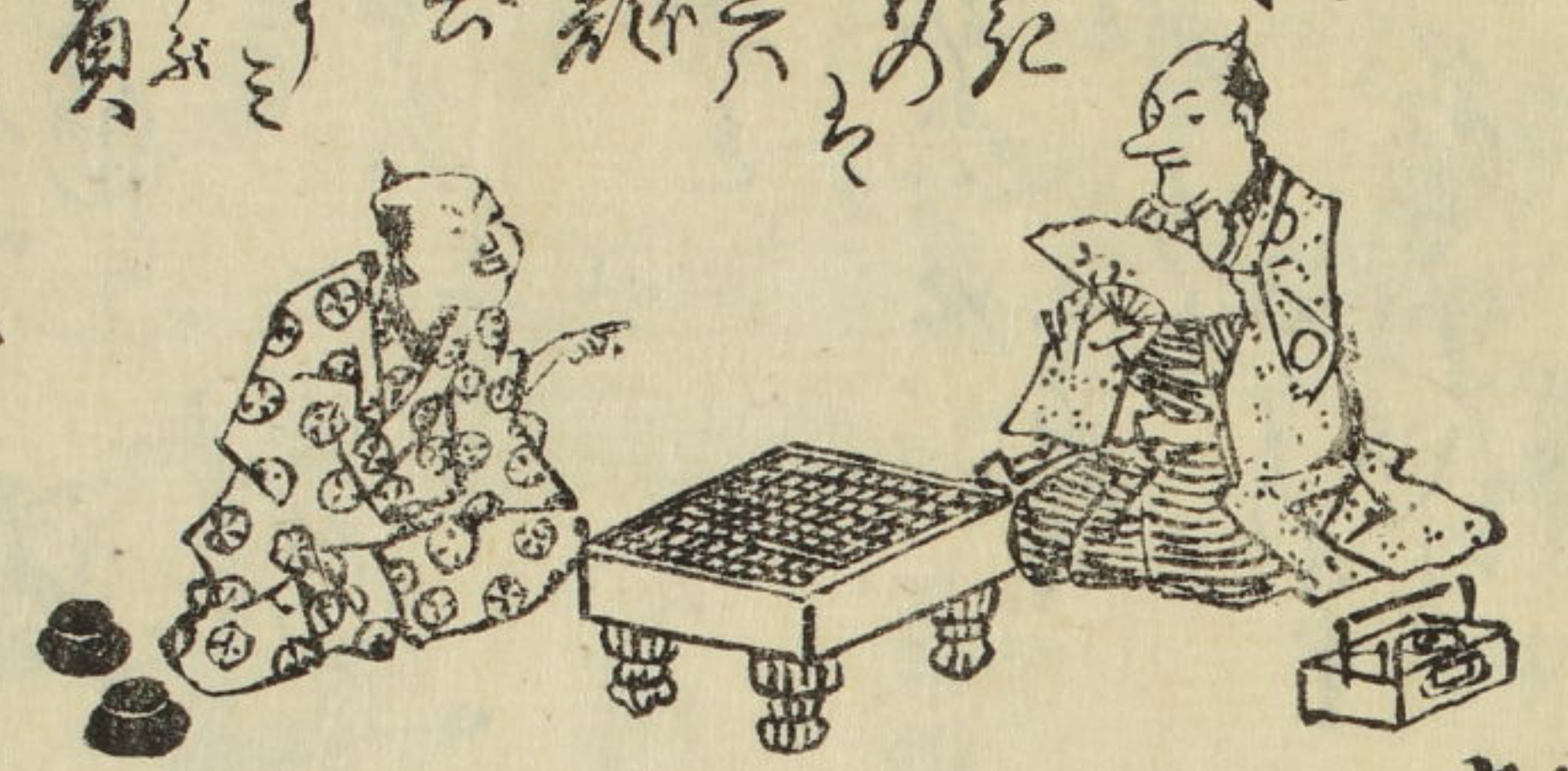
鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ



鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ  
鬼小  
あそり  
さうわ



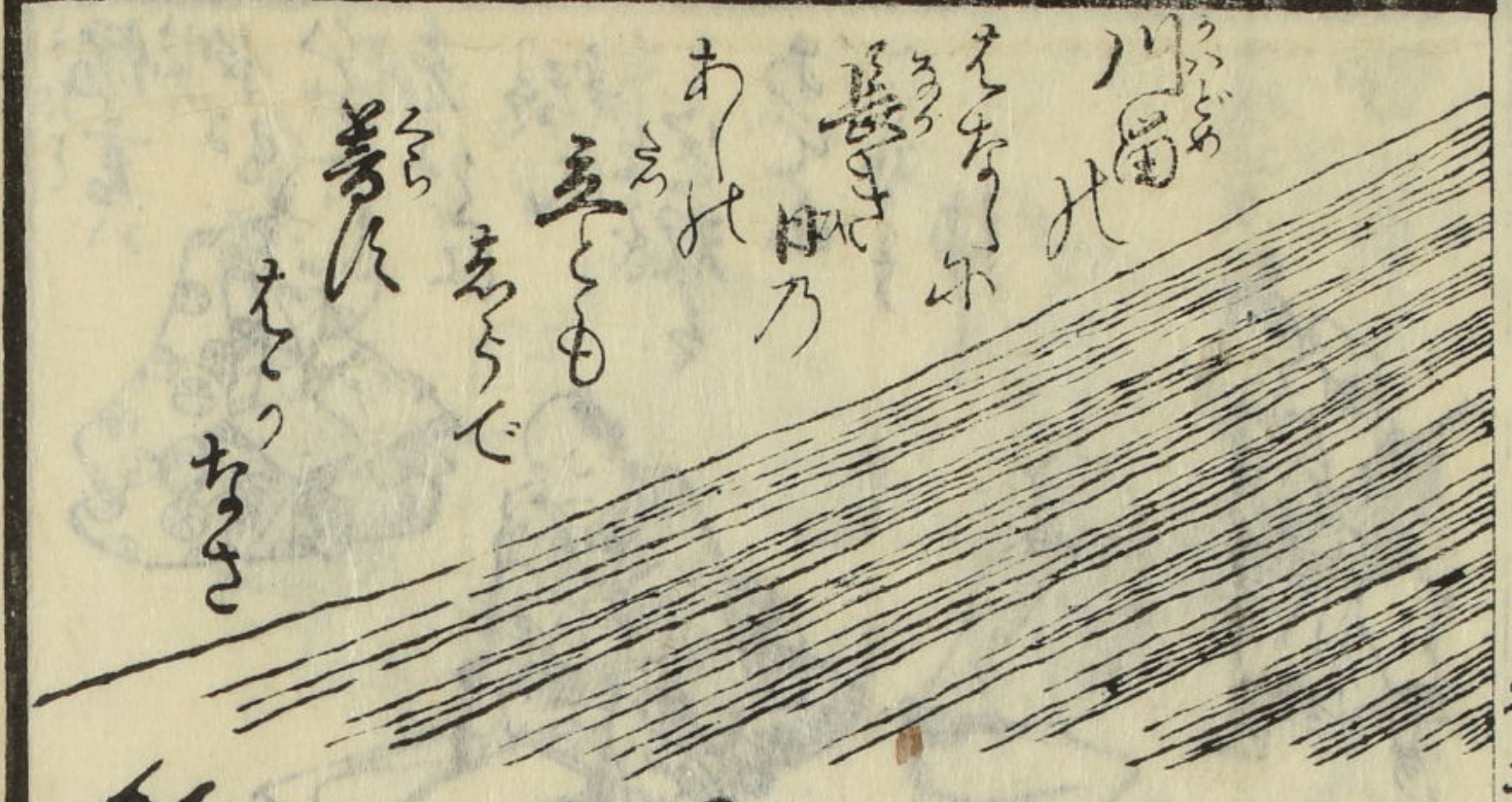
よの せの  
 中  
 せま  
 の  
 ね  
 ぬす  
 御負



虎  
 の  
 破  
 人  
 の  
 悔  
 の  
 ぞ



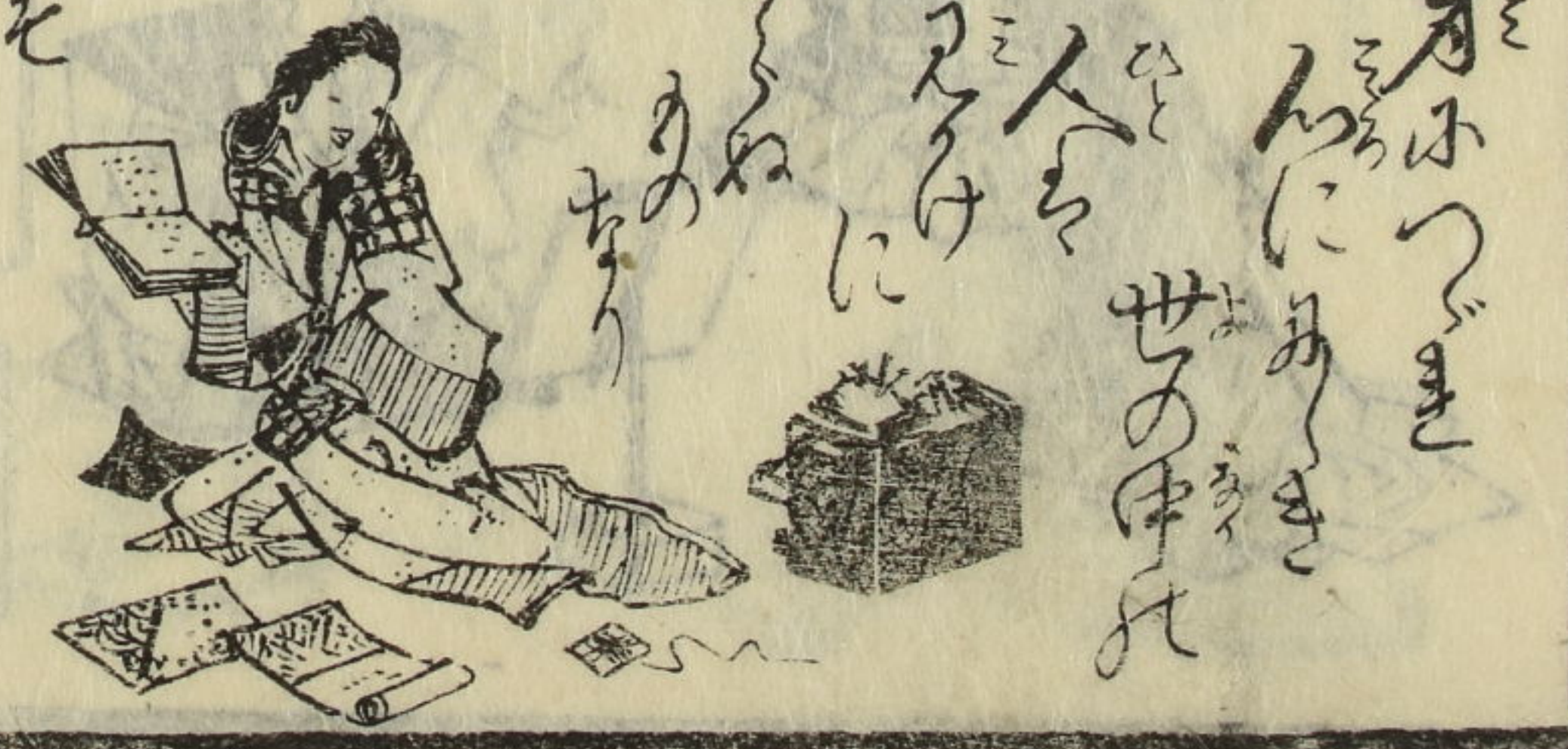
とん  
 ぐん  
 人の  
 大毒  
 用  
 つか



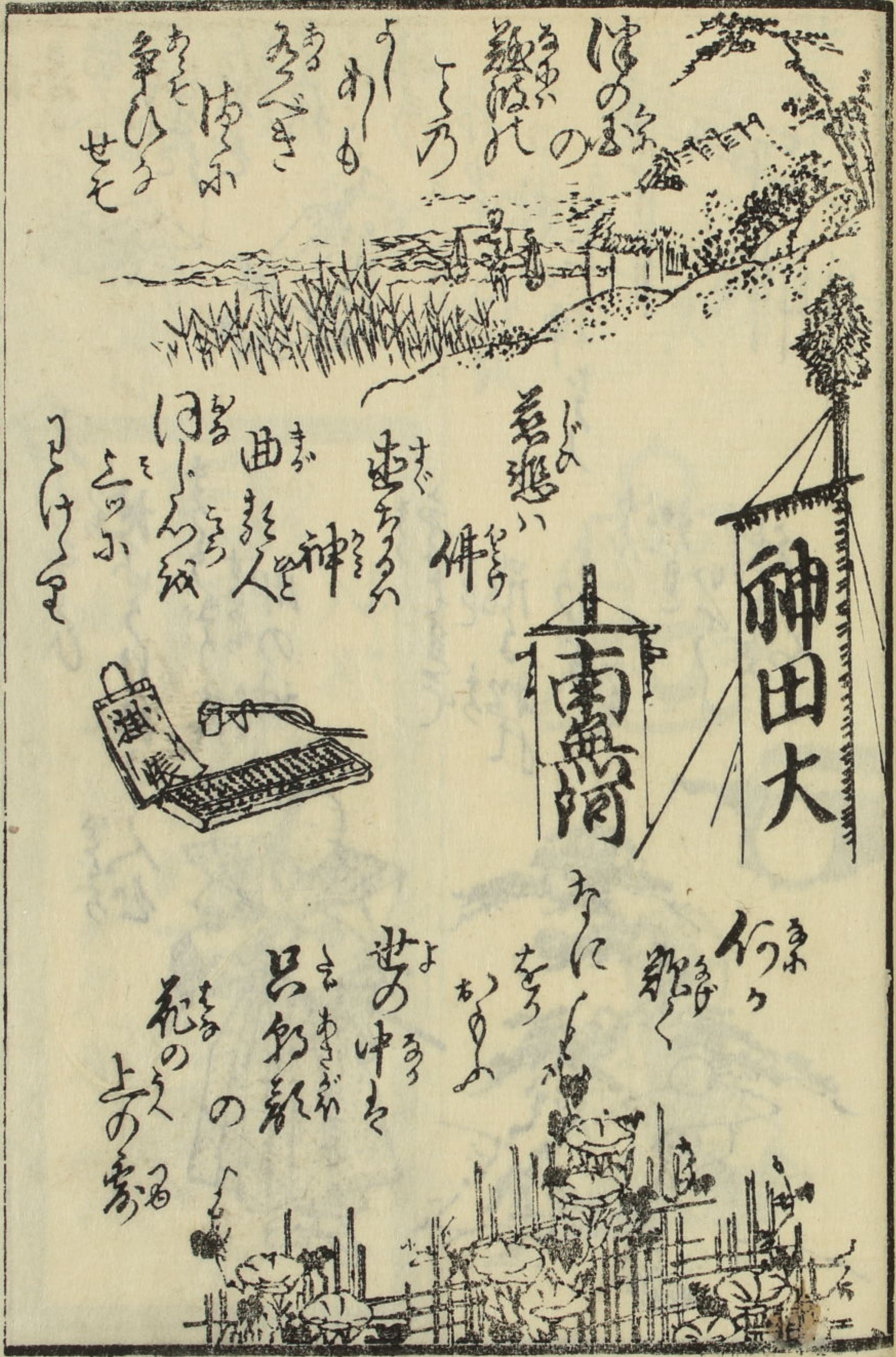
川  
 せ  
 の  
 中  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ

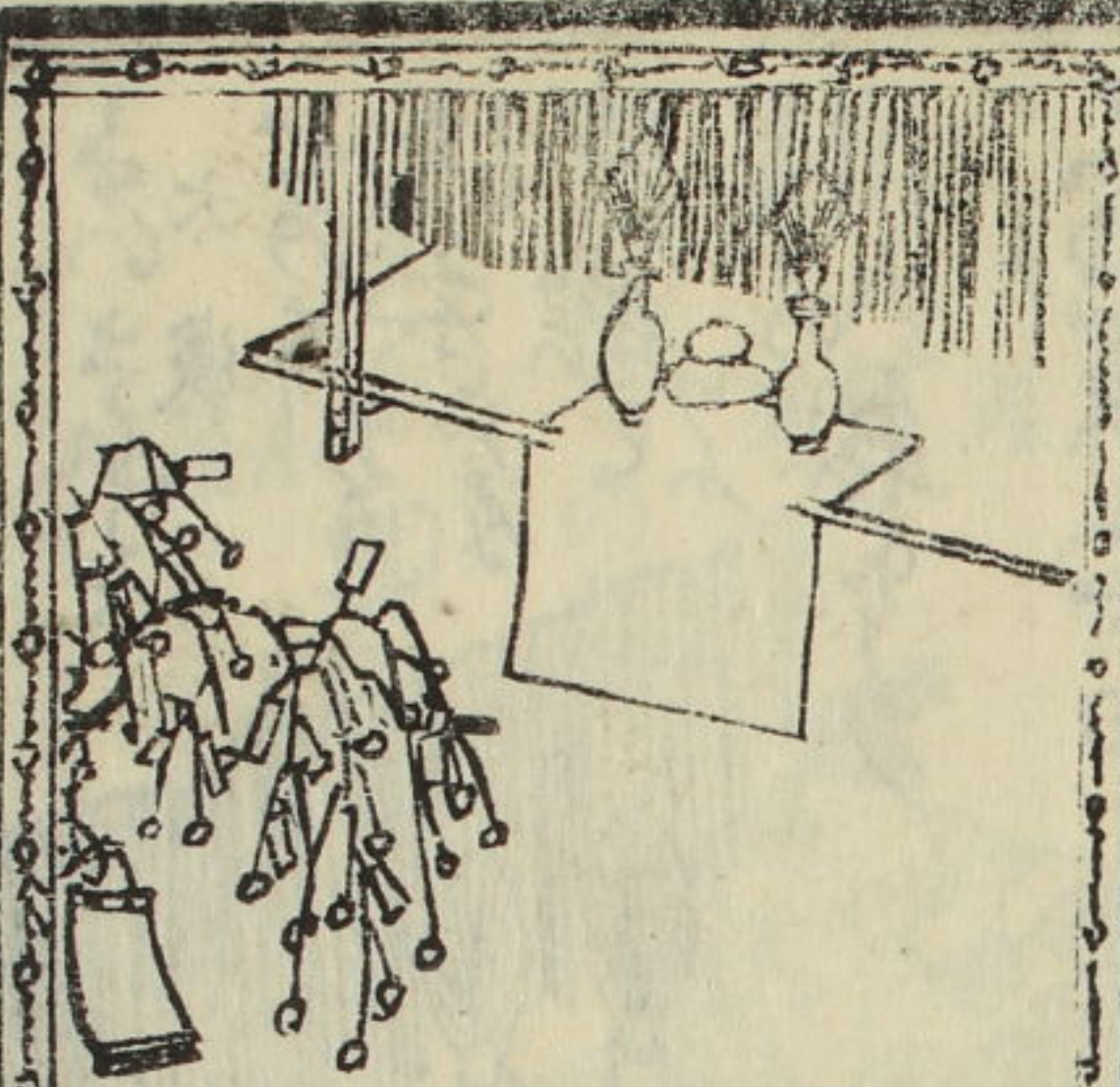


長  
 巻  
 独  
 が  
 麻  
 衣  
 と  
 死  
 の  
 時  
 の  
 行  
 部  
 を  
 と  
 海  
 を  
 舟  
 け  
 せ



身  
 の  
 つ  
 ぎ  
 の  
 世  
 の  
 中  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ  
 へ





世の中の人乃  
 公とらるる  
 心通て  
 心通て  
 心通て

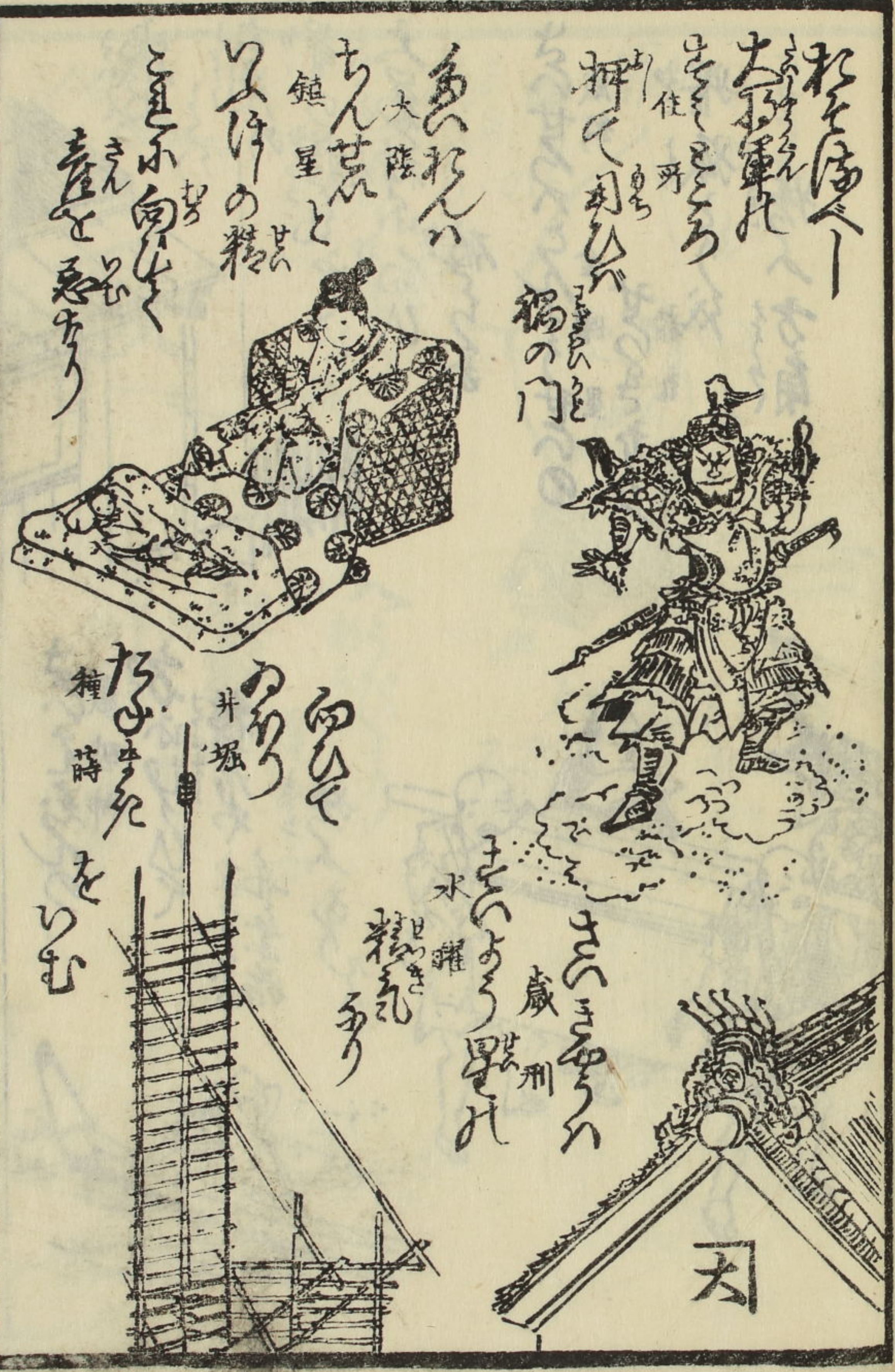
八將神とせしめりて曆乃  
**日用重宝曆歌**  
 全  
 講志やくと和交中史巻く祀次



皆人の  
 車に  
 生辰  
 神乃  
 神の  
 神なる  
 現  
 神の  
 即の神  
 天の  
 地ふらけぬ人公





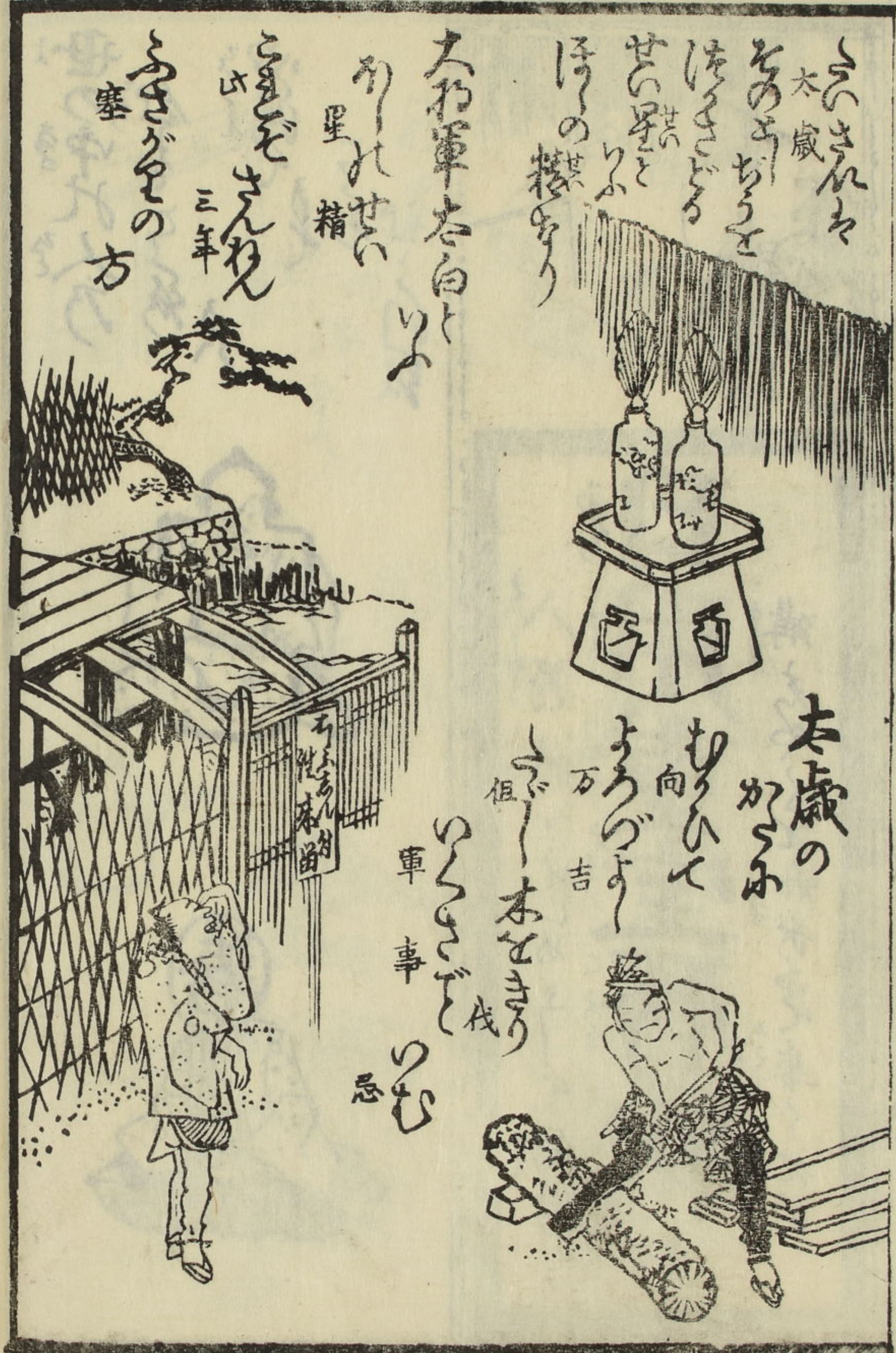


多岐の門  
大座  
あんせん  
鎮星と  
りよりの精  
と道小向ひ  
きんを  
を  
を

ねを  
大座  
住所  
押へ  
福の門

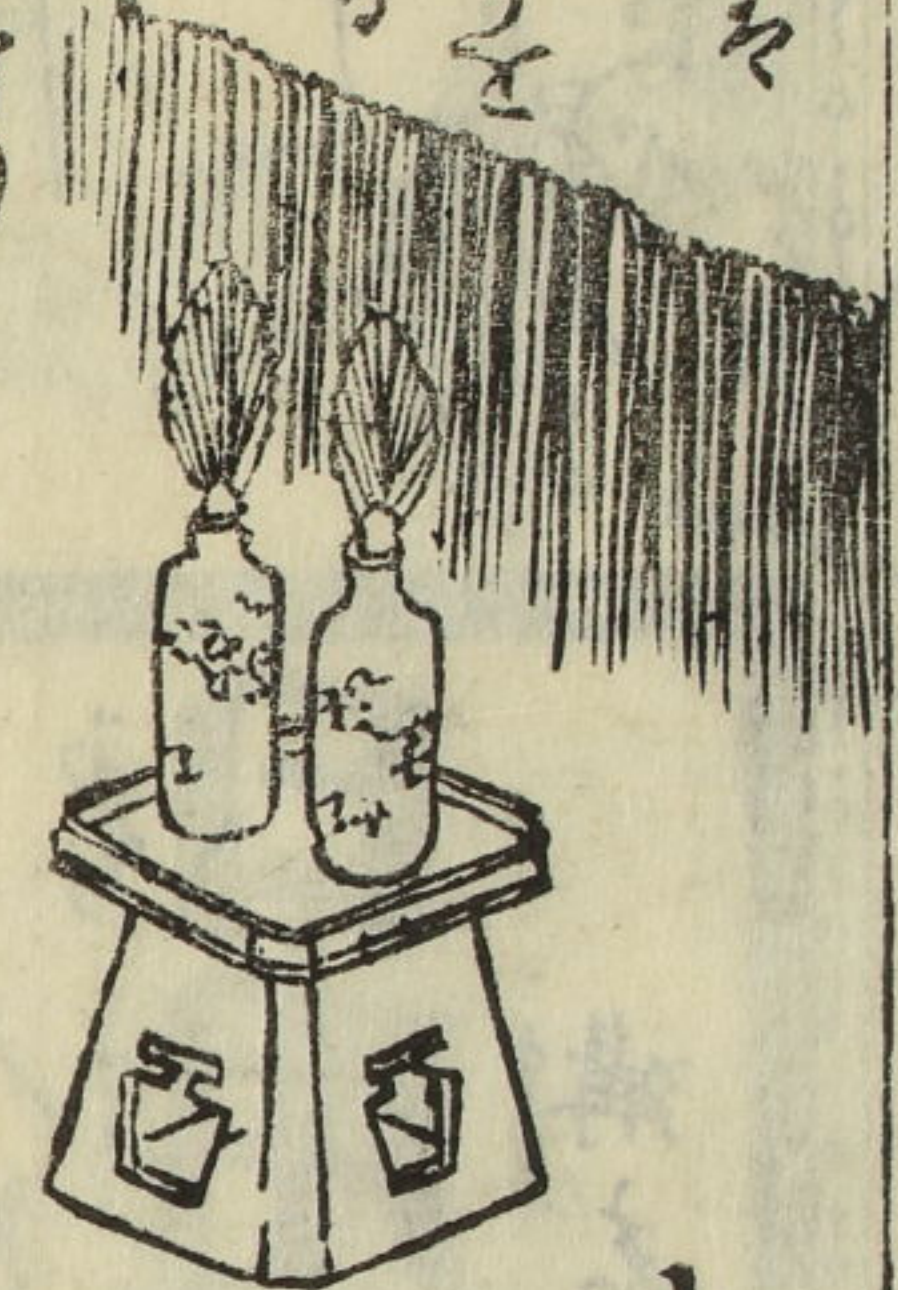
種  
た  
詩  
を  
り  
井坂  
わ  
向ひ

水曜  
精  
あり  
歳  
刑  
大

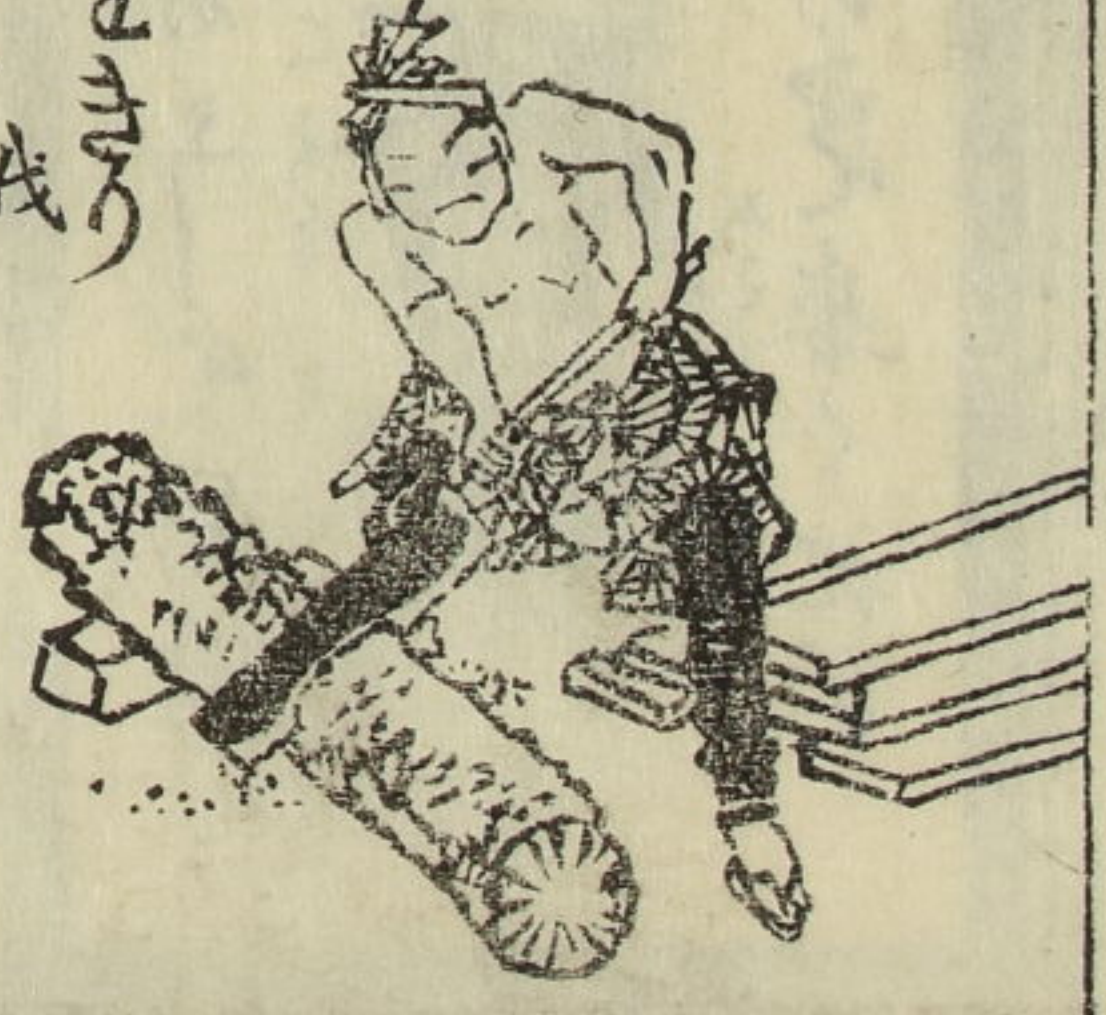


大座  
三年  
塞  
方  
星  
精  
大座  
右白  
り

大座  
その  
は  
せ  
ほ  
の  
精



大座の  
か  
む  
向ひ  
よろ  
吉  
但一本  
車事  
忌



車事  
忌



コウゴウ  
黄幡

羅  
雁  
の  
精  
け  
方  
に

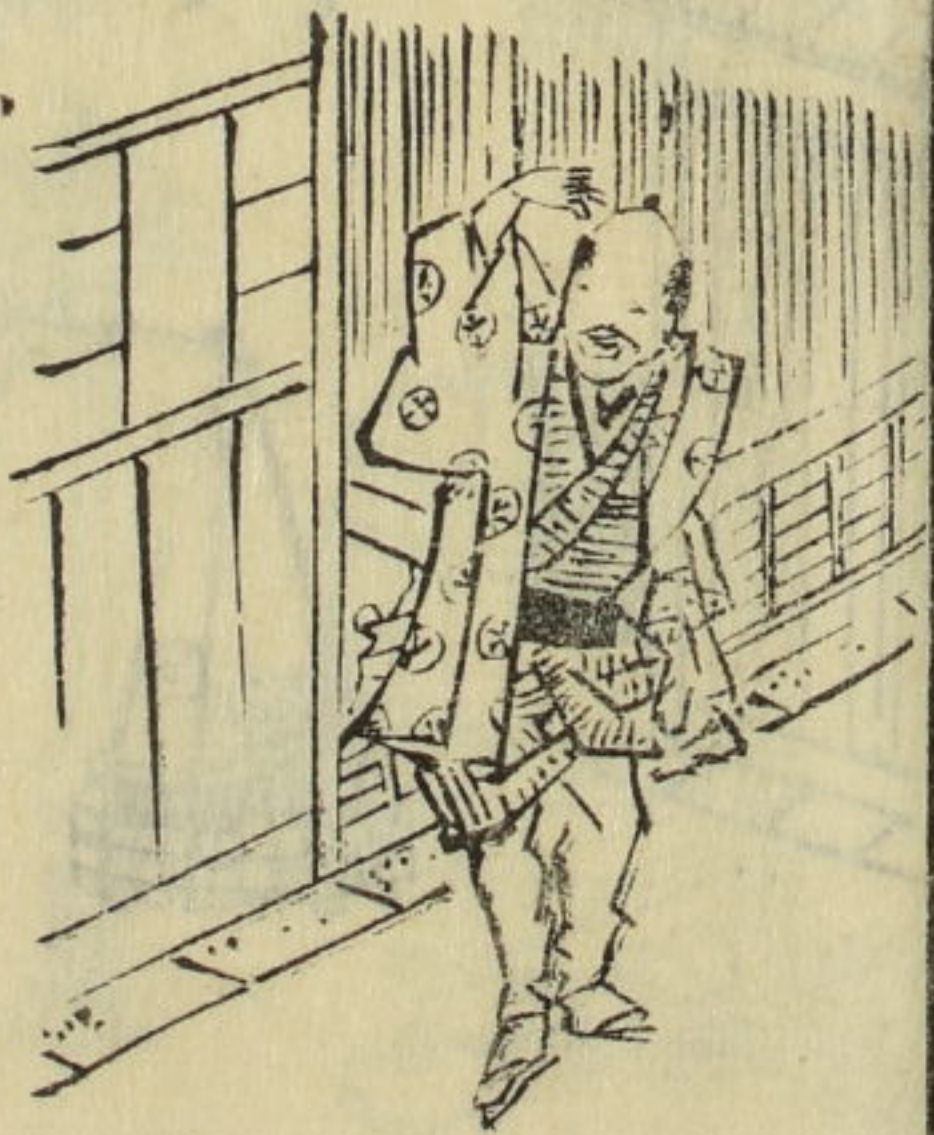
向  
ひ  
く  
率  
の  
尾  
あ  
か

約  
尾  
都  
星  
の  
精  
け  
る  
ま  
ば  
大  
小  
の  
率  
不  
便  
なり

約  
尾  
尾  
あ  
か

生  
尾  
お  
か

必  
後  
ふ  
あ  
る  
し  
も  
ど  
り  
ひ



歳  
破

大  
角  
の

大  
角  
の  
精  
け  
ら  
ん  
の  
光

破  
ら  
ん  
の  
家

歳  
殺  
金  
曜  
星

せ  
の  
ま  
か  
り

婿  
娘  
ど  
う  
成

婿  
娘  
ど  
う  
角

ま  
ま  
を  
ん  
の  
歳  
破  
神

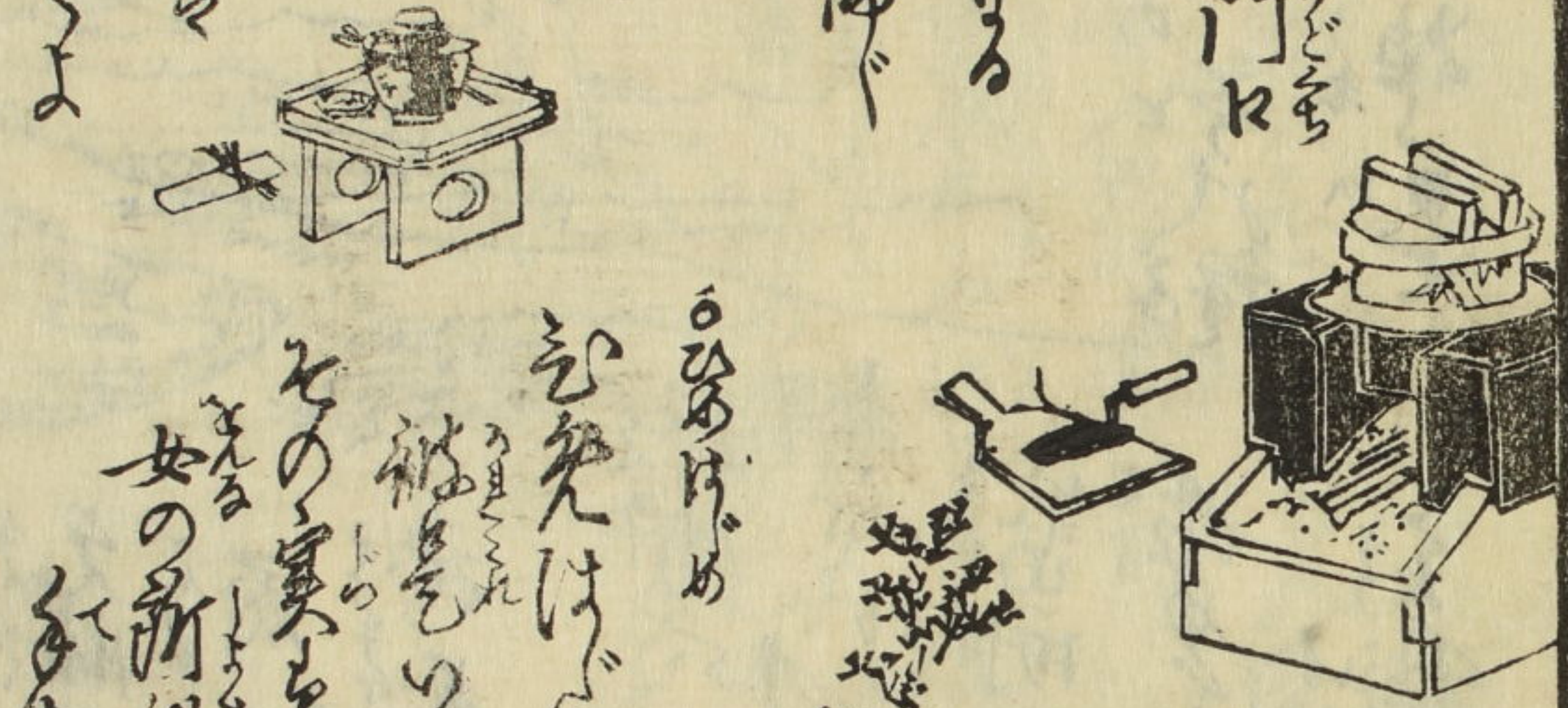
お  
は  
し  
り  
ひ  
え

後  
居  
や  
あ  
か  
ら  
あ  
あ  
な  
あ

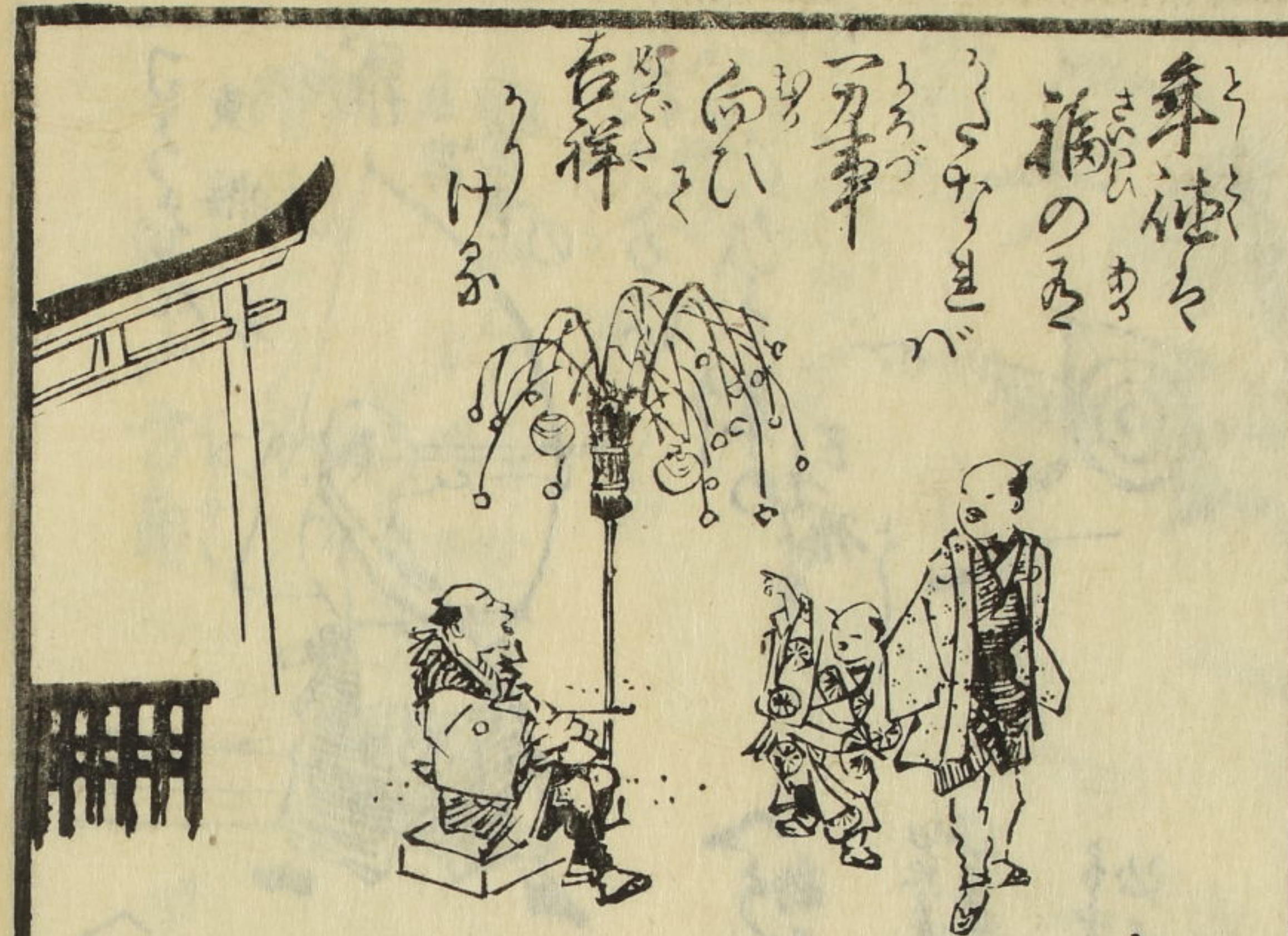
婿  
娘  
あ  
り  
る



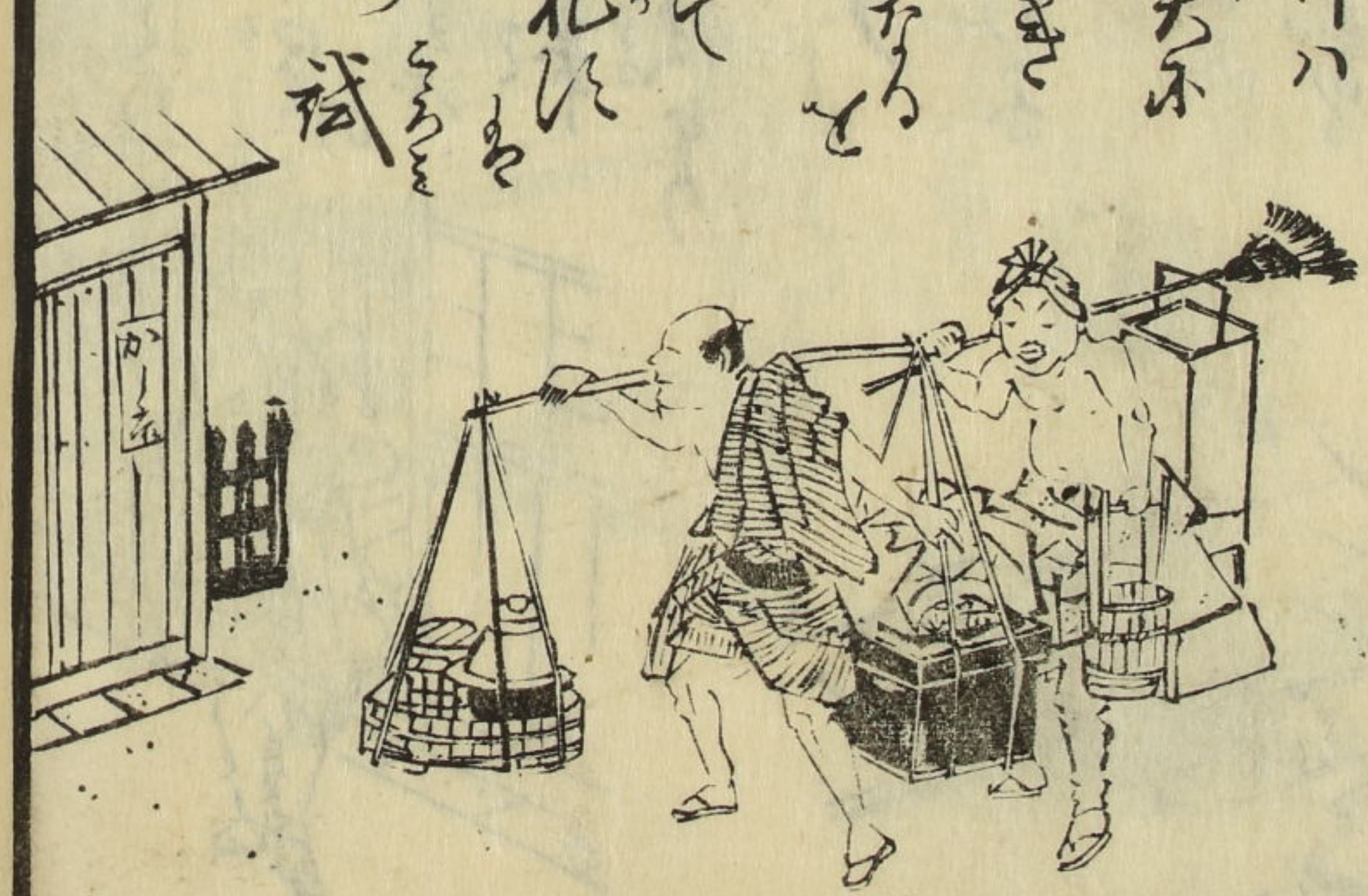
土公神の佳所  
 春の寛夏ハ門は  
 秋の井戸  
 秋の庭  
 秋の庭  
 秋の庭



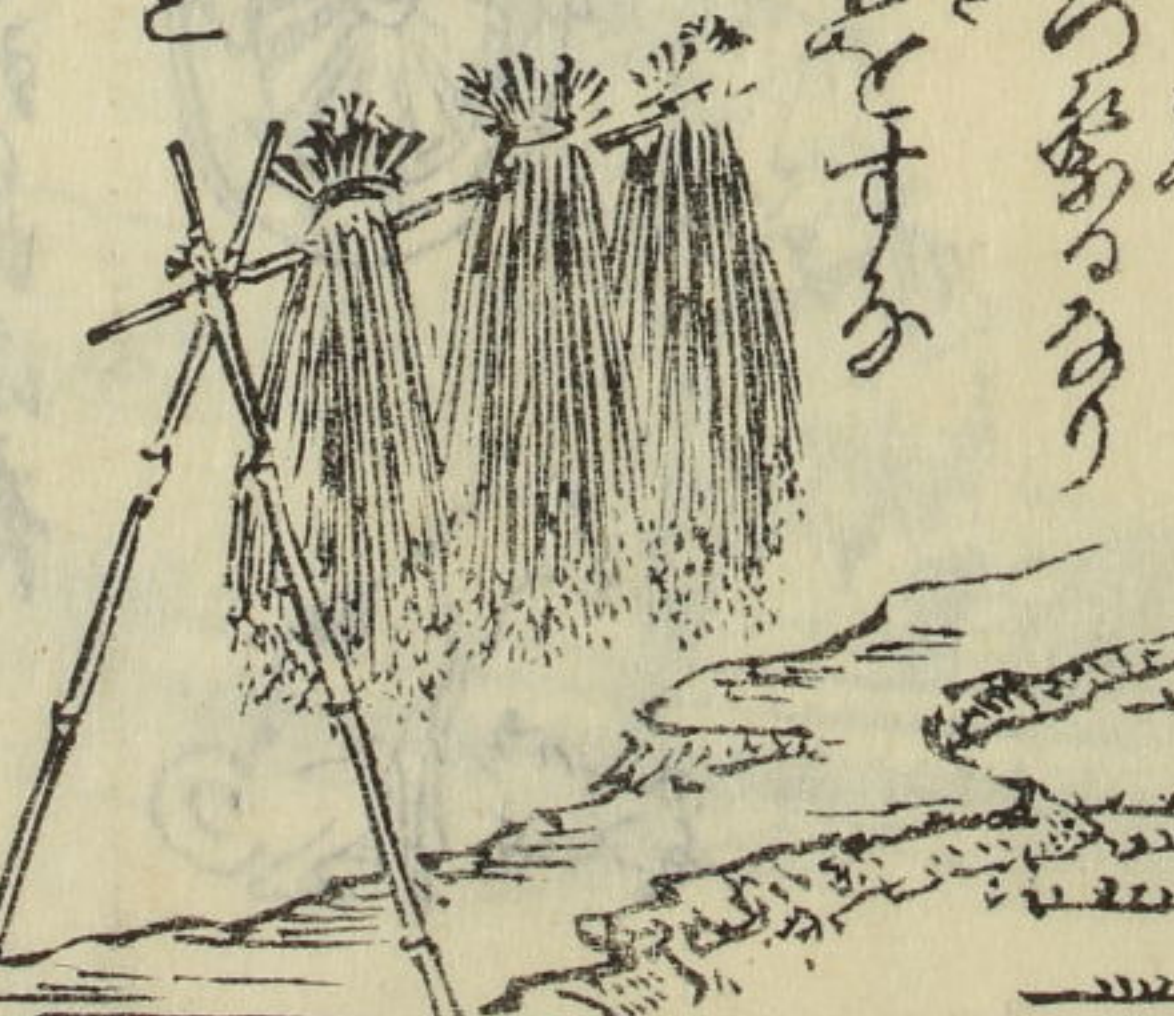
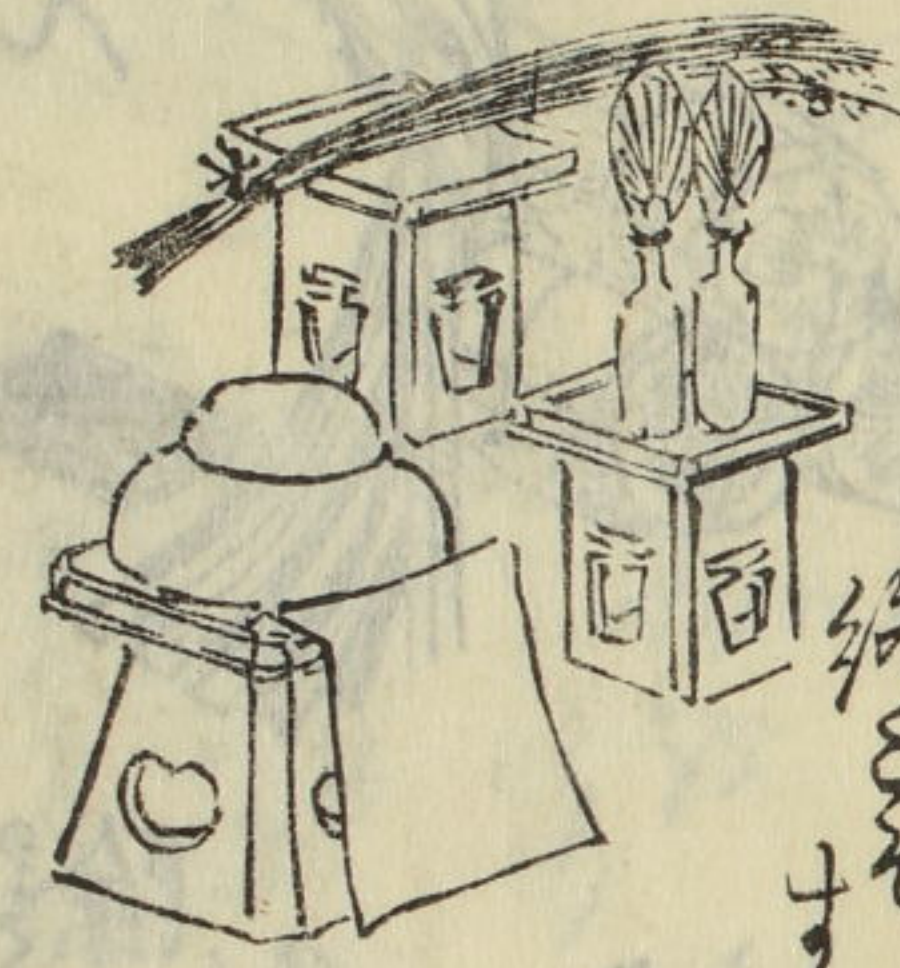
おひげは  
 女の所  
 女の所  
 女の所



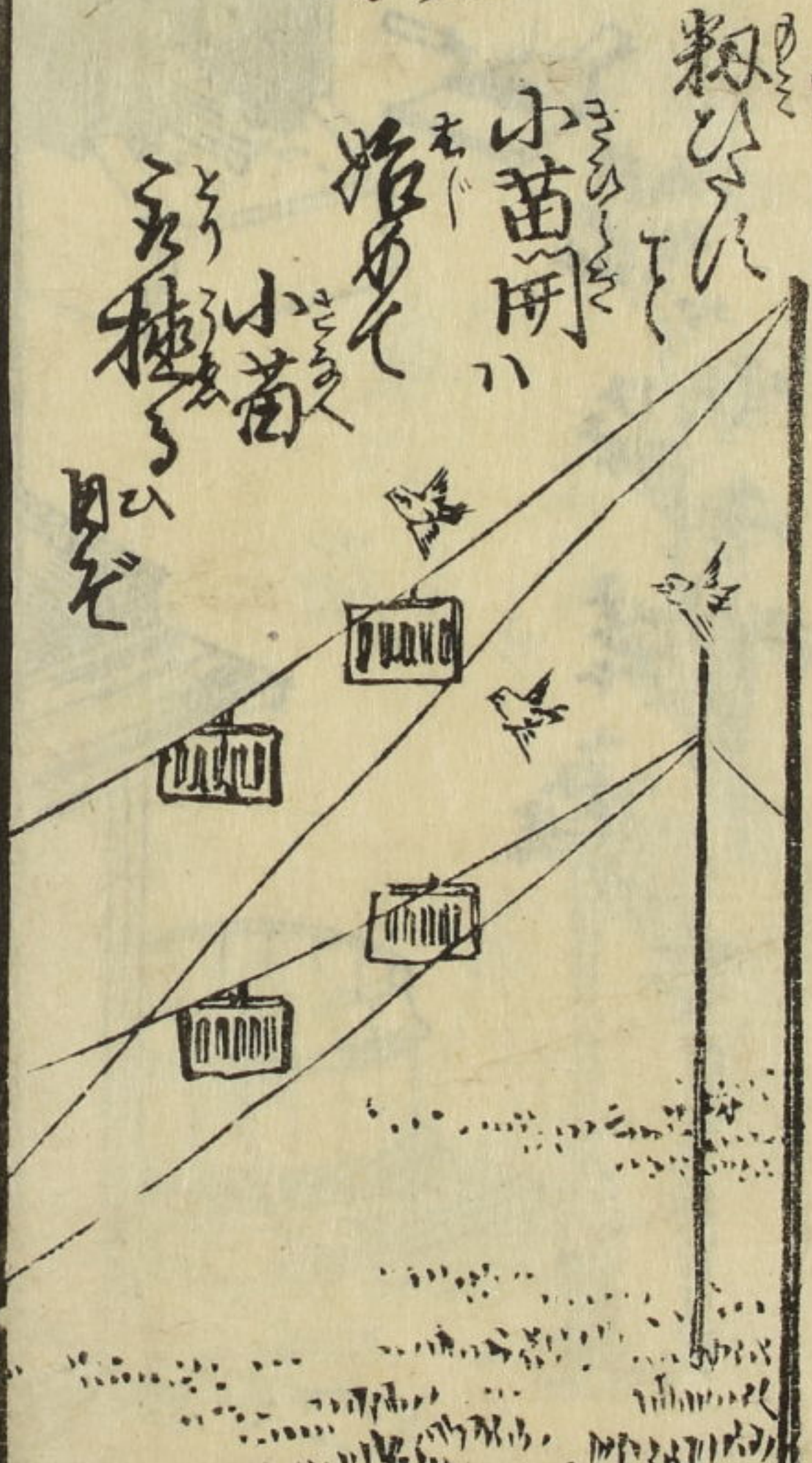
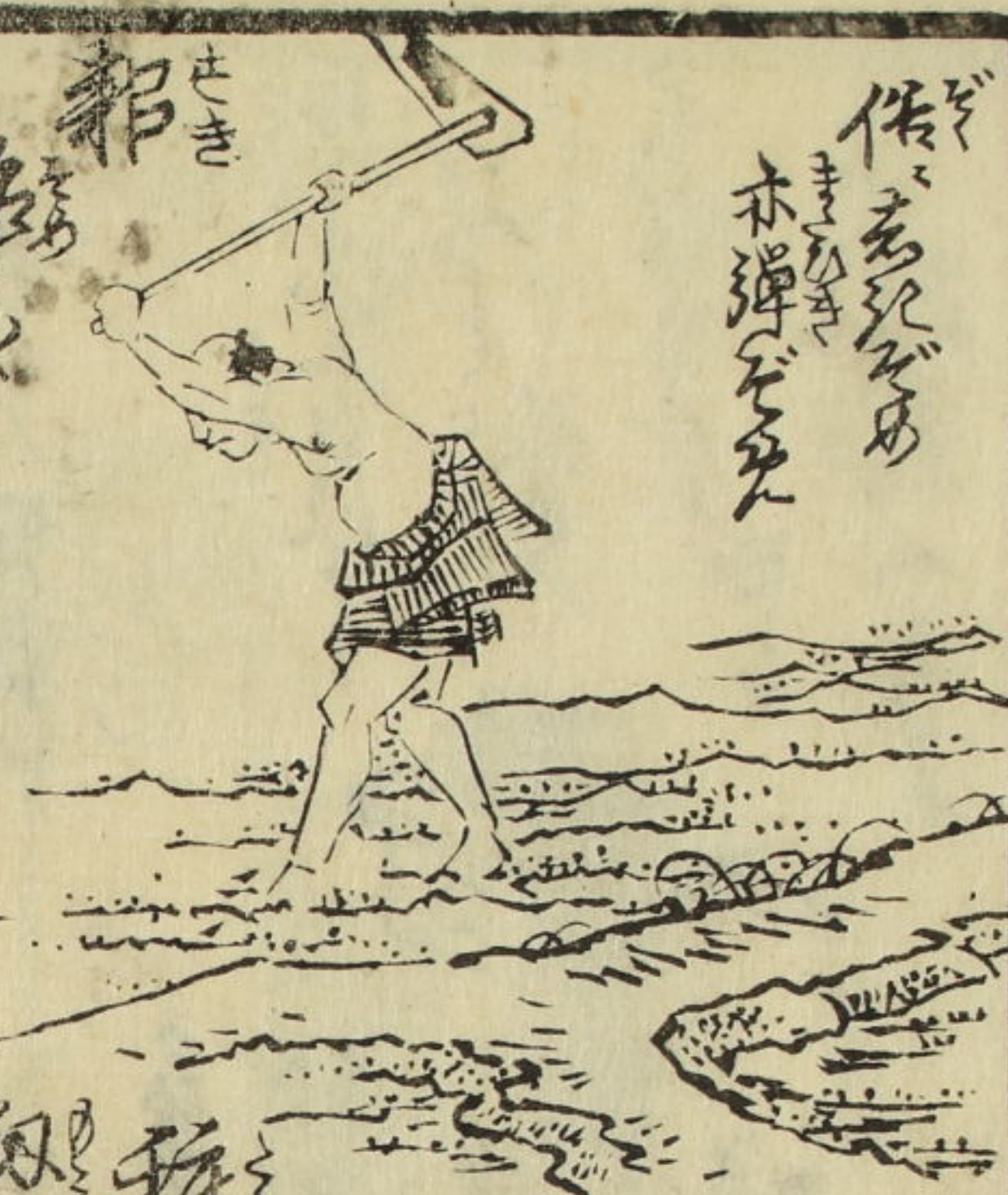
金神ハ  
 毒の試  
 押  
 方  
 思



○穂掛くは始て稲の穂残うけて又穀の神とまづあつるあり  
 ○八月廿五日辰年卯戌こまき鳥日ふ  
 ○甲申に十方善入始め祭の己ふ  
 ○天一天上  
 ○巴の厨

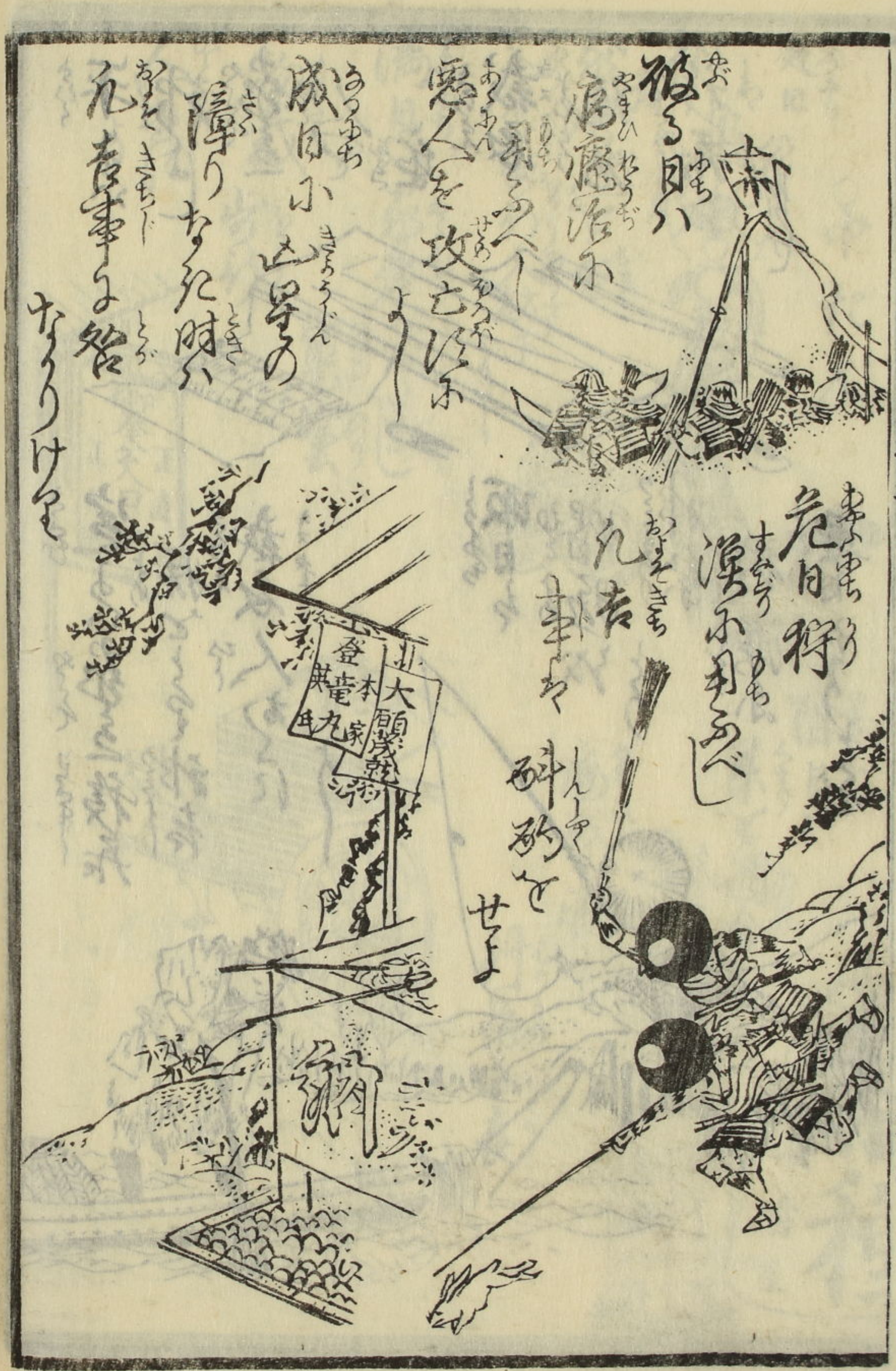


佐々木  
 赤弾  
 報  
 小田  
 麻為  
 前  
 小苗  
 稲  
 元服  
 刺  
 袴  
 小苗  
 稲  
 元服  
 刺  
 袴





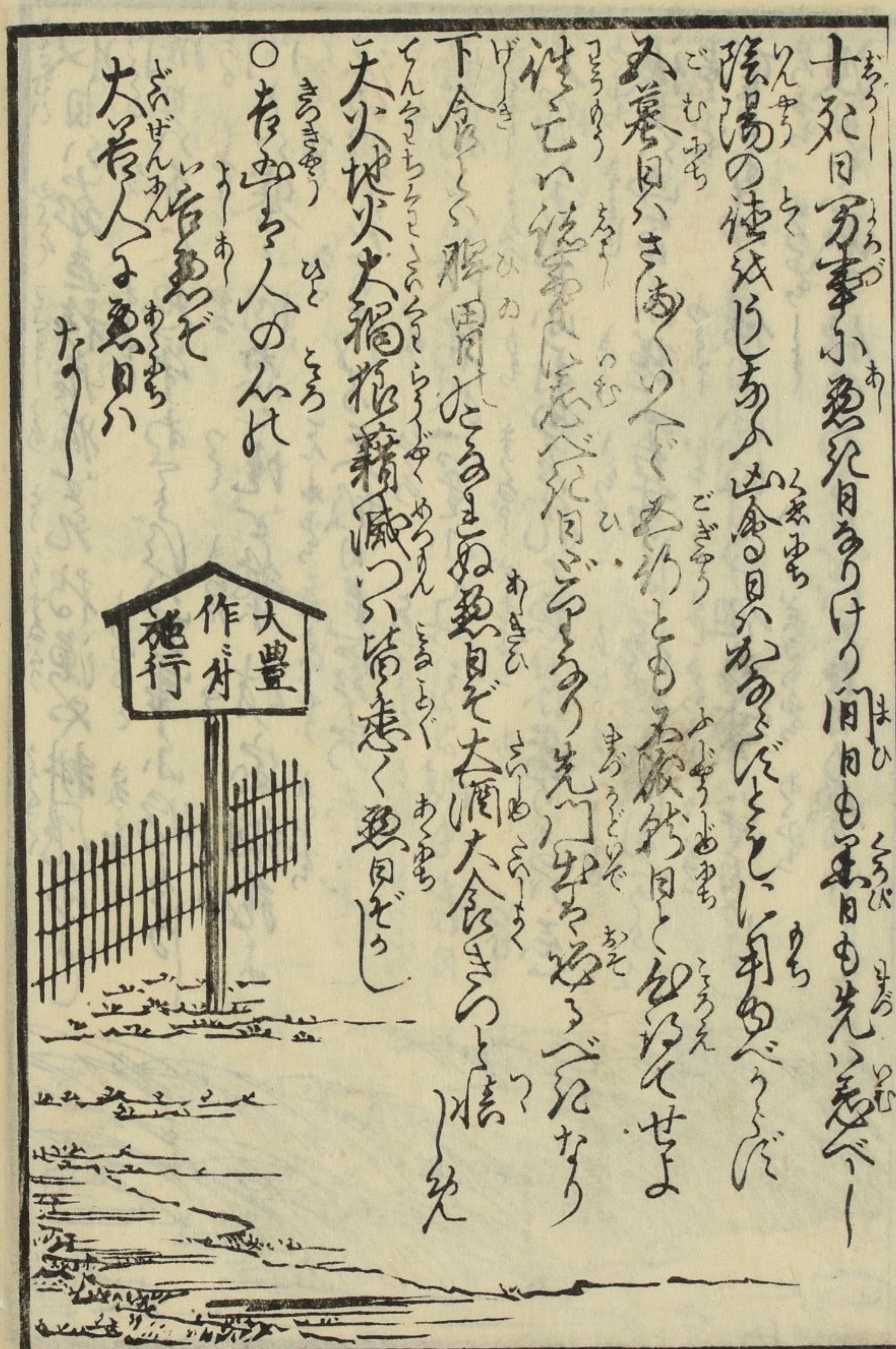
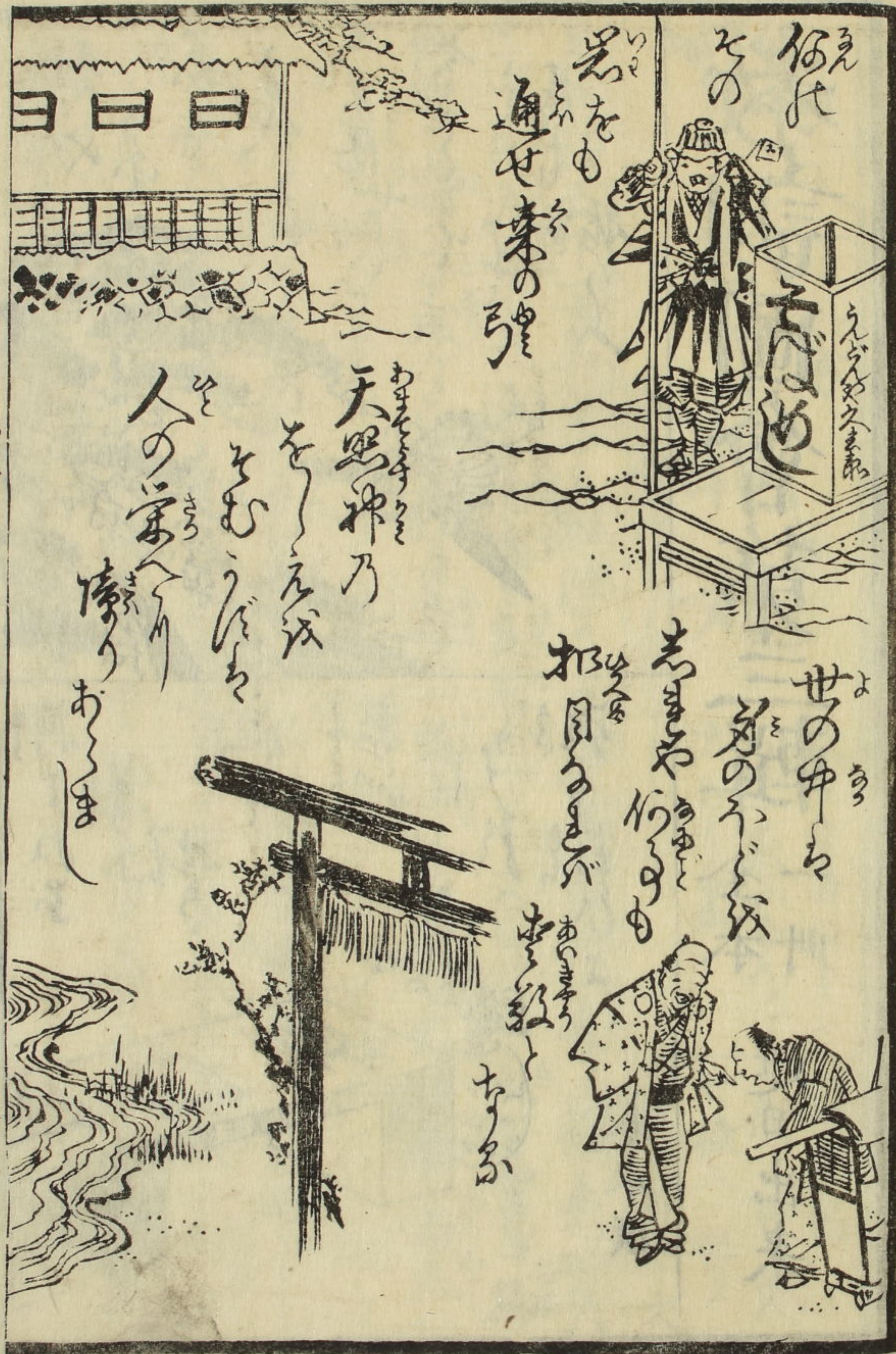
収目あつめの移うつるるはは死しすす也や耕かう作さくははし  
 閑ひま日ひのの悪あく事ことををわわるるはは六む方ほう事こと小せう物ぶつをを序しり  
 閑ひまとと塞さいとと同どう心しん之の境ぎやうとと築ま材ざい宝ほう納な免めんよ  
 徳とくのの罪つみををささすすはは天てん赦しやう目め是こゝ家けのの吉きち日にちぞぞし  
 鬼き宿しゆくとと六む方ほう宿しゆくはは一いつ星せい小せう人にん此こゝ司しるる時ときもも吉きち日にち  
 大だい明めいのの方ほう事こと小せう利り由ゆにに対たい大だい魚ぎよ目め小せう者しやありるるるがが忌い  
 復ふ目めのの凶きやう子し小せう孫そんのの吉きち事ことはは挽ひ提てい目め死しにに對たいべべんん  
 重おも目めのの凶きやう子し復ふ目め小せう同どう子し但たゞ吉きち事ことはは守まもりり目めががは  
 没もつ日にちやや減へ日にち能のうののああるる目めとと吉きち日にちのの熱ねつ日にちはは

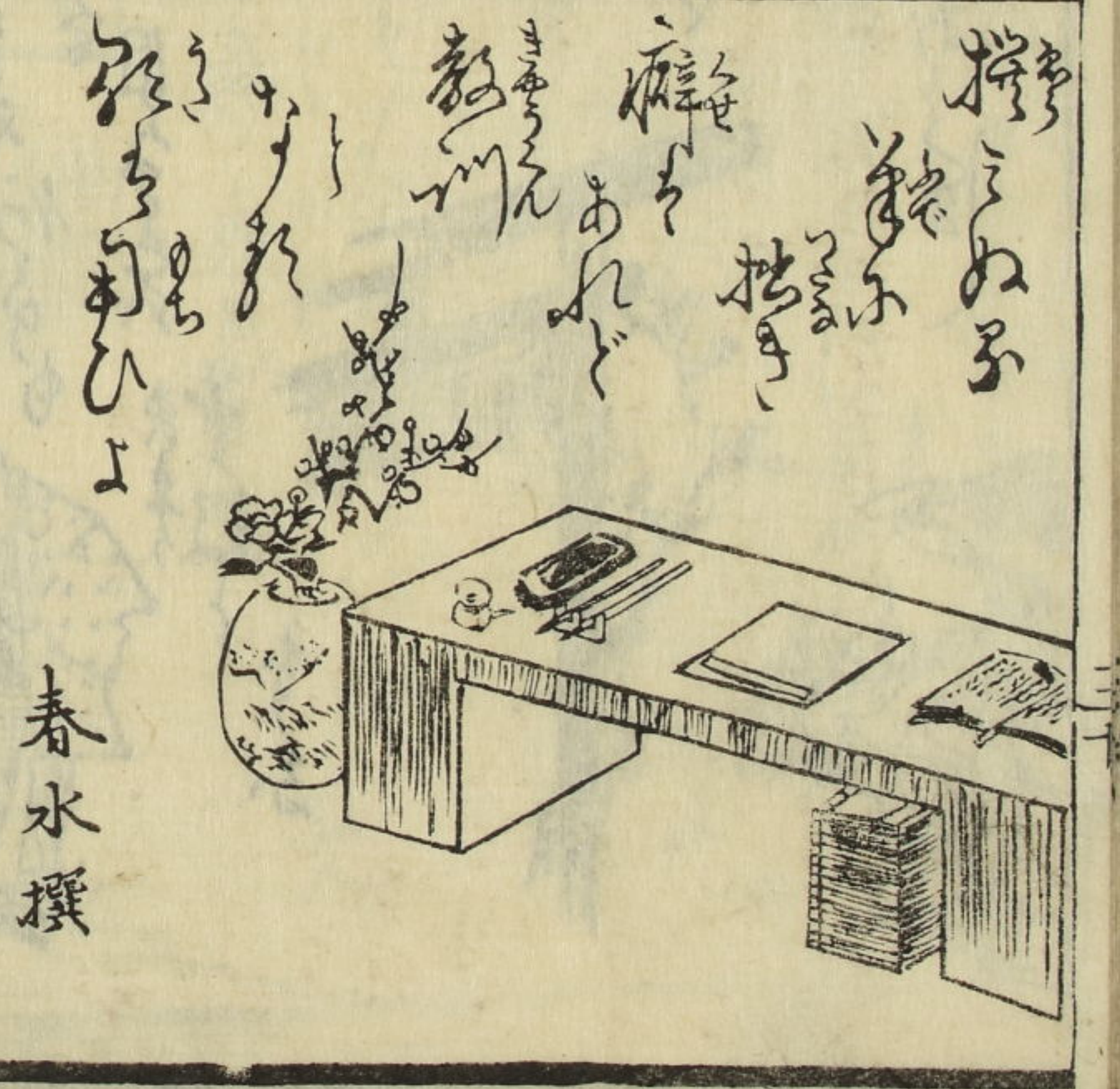


被あるる目め  
 唐たう唐たう活かつ活かつ活かつ活かつ活かつ活かつ  
 悪あく人にんをを攻せう亡わうははしし  
 成あつ目め小せう凶きやう事ことの  
 障さうりりのの凶きやう死し時ときのの  
 九く吉きち事ことのの智ち  
 千せんりりけけをを

先ま日にち狩しゆ  
 漢かん小せう利り由ゆにに対たいし  
 九く吉きち  
 事ことをを研けん酌しやくせせ  
 廿に五ご

北きた大だい頭とう家けのの物ぶつ  
 登のぼりりのの物ぶつ  
 納な





# 教訓圖會第三輯

全本 一冊

近日出来

春水撰



## 天下一方 登龍丸

食物さし合か

たん甘きつら  
 いん一巻ある  
 大りう茶

一粒入一包  
 代百文  
 七粒入一巡り  
 代六百五十文

此登龍丸は天下一方我々が秘法うして病後留飲一通りの病を治す  
 十年二十年病後嘆息して上胸痛と立居成るく又留飲して病を治す  
 痛飲後も病後嘆息して上胸痛と立居成るく又留飲して病を治す  
 三巡りも病後嘆息して上胸痛と立居成るく又留飲して病を治す  
 病全く治るるの病後嘆息して上胸痛と立居成るく又留飲して病を治す  
 得る胃を潤ひ死力をすす 病後嘆息して上胸痛と立居成るく又留飲して病を治す  
 延命するの救万人用ひある後とて切の大なるり古今くを叙希代  
 不日後之物あるり 切丸あるり



一 十一年廿年喘息

一 風の喘

一 咽喉せりつぎ

一 痰血交り

一 初気はよく怔忡

一 婦人産後後の喘

一 喘飲せりるふさがり

一 多痰をせりる人時々用ゆる

一 抑痰の葉青より徳の虫物中もあつ

一 痰咳の言ふもむらび痛をやく

一 喘飲の二病とも治し

一 勞症の喘

一 喘せり

一 痰飲せりつらむ痰のせり

一 痰飲はてもむらび

一 小児百日咳

一 喘飲せりむね痛

一 此外痰飲喘飲より起る病一切より

一 多痰をせりる人時々用ゆる

一 抑痰の葉青より徳の虫物中もあつ

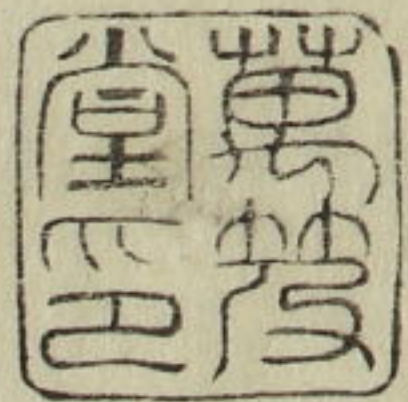
一 痰咳の言ふもむらび痛をやく

一 喘飲の二病とも治し

飲せりるを治し百葉をせりるも治し  
葉青より徳の虫物中もあつ  
抑痰の葉青より徳の虫物中もあつ  
痰咳の言ふもむらび痛をやく  
喘飲の二病とも治し

取次所 書林

萬笈堂 英大助

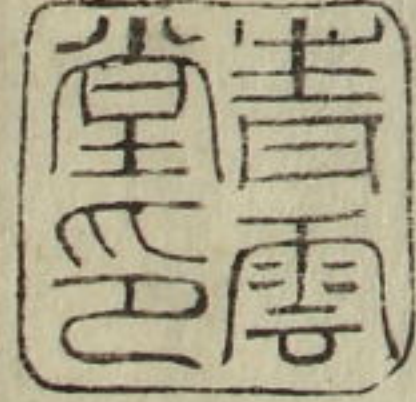


江戸本石町十軒店

東叡山 御用

御書物所

青雲堂 英文蔵製



江戸下谷御成道

